

日本武道学会剣道専門分科会報

ESPRIT

2022

剣道専門分科会 会長 挨拶

長尾 進 (明治大学・教授)

令和4年度 日本武道学会第55回大会 剣道専門分科会 企画講演

武道学における精神文化史研究 序説

—研究方法論の探究—

酒井 利信 (筑波大学体育系・教授)

令和3年度 日本武道学会 剣道専門分科会 研究会

ブラジルの剣道事情最前線

尾中・エウザミ・美和

(サンタカタリーナ州文武館道場剣道指導員、フレイロジェリオ市市議会議員)

事業報告

会計報告

事務局便り

Division of KENDO, Japanese Academy of BUDO

日本武道学会剣道専門分科会

目次

剣道専門分科会 会長 挨拶 長尾 進（明治大学・教授）	・・・1
令和4年度 日本武道学会第55回大会 剣道専門分科会 企画講演 武道学における精神文化史研究 序説 －研究方法論の探究－ 酒井 利信（筑波大学体育系・教授）	・・・3
令和3年度 日本武道学会 剣道専門分科会 研究会 ブラジルの剣道事情最前線 尾中・エウザミ・美和 （サンタカタリーナ州文武館道場剣道指導員、フレイロジェリオ市市議会議員）	・・・30
令和3年度 剣道専門分科会 事業報告 令和3年度 剣道専門分科会 一般会計決算書	・・・45
令和4年度 剣道専門分科会 事業計画 令和4年度 剣道専門分科会 一般会計予算書 令和3・4年度 剣道専門分科会 特別会計決算・予算書	・・・47
事務局便り	・・・50



挨拶

剣道専門分科会 会長

長尾 進 (明治大学 教授)

会長を仰せつかってからはや2年半が経とうとしており、残す任期もあと半年ほどとなりました。2020年1月の日本における新型コロナウイルス感染症発見とその後の流行は、オミクロン株による流行第7波を経験しましたが、それでも社会においては少しずつコロナ禍前に戻ろうとする動きが加速しつつあります。

日本武道学会および当専門分科会におきましても、コロナ禍を契機としてオンラインでの発表や企画が工夫されてきましたし、そのことは今後も財産として遺っていくことと思います。一方で今年の日本武道学会第55回大会(9月3日・4日)は、桐蔭横浜大学さんに多大なご尽力をいただき、3年ぶりに対面で盛会裏に開催することができました。剣道関係の発表も多く、会場のあちらこちらで最新の情報交換をする姿や旧交を温める姿がみられ、また、剣道分科会企画(対面+オンラインのハイブリッド開催)にもこれまでにないほどの多くの会員(とくに大学院生)が会場に参加いただ

き、対面開催の良さをあらためて感じた次第です。

さて、日本の剣道界を見ますと、コロナ禍での大会や審査会もガイドラインや暫定的試合審判法を遵守し、かつ種々工夫しながら開催が継続されてきました。また、制限付きではありながら有観客での大会も少しずつ増えてきました。

海外に目を転じますと、コロナ関連の制限がいち早く緩和されているヨーロッパにおいては、今年の5月に第31回ヨーロッパ剣道選手権大会(31stEKC)がドイツ・フランクフルトで3年ぶりに盛会裏に開催され、旧交を温め合う姿や、合同稽古やフェアウェルなどで「交剣知愛」を堪能する多くの剣道家たちの姿を目にすることができました。

その31stEKCで印象的な出来事がありました。ロシアの侵攻を受け、稽古もままならないウクライナの剣士たちが、フランス在住の剣道家が発起人となったクラウドファンディング(日本からの寄付も多かったと聞きます)や開催国ドイツ剣道連盟

の参加費支援もあって、国外に出ていた選手を中心にジュニア1人、男性3人、女性5人が大会に参加できたことでした(詳しくは、オランダ在住のフリージャーナリストで剣道五段の佐藤まり子さんがいくつかの記事を書かれインターネット上でも公開されていますので参照ください)。もとより同国の剣道は発展途上のところであり、かつ稽古不足もあって上位進出はなりませんでしたが、彼らの参加をサポートした人たちの熱意と、それに精一杯応えようとする彼らの奮闘は、心を揺さぶられるものがありました。

彼らの家族のなかには、爆撃を受けている町に住んでいる人もいるとのことで、おそらく大会に参加していてもそうしたことが心をとらえて離れなかったことでしょう。しかし、それでも彼らはこの大会に参加することを選択しました。佐藤さんの記事によれば、ウクライナ剣道連盟 Kostyantyn Stryzhychenko 会長は「ウクライナの剣士たちにとって大会参加は、‘希望’の一つだった」とのことです。私も

合同稽古で彼と剣を交え会話もしましたが、悲惨・困難な状況下にあっても‘希望’となりうる剣道のもつ価値をあらためて認識させられました。

今号における酒井利信分科会幹事長の記事（本年度学会大会時の分科会企画における講演）には、ユーゴスラビア紛争時の元兵士を対象とした研究が紹介されています。剣道・武道が‘癒し’としての意義や効果をもつ可能性や、剣道・武道のもつ教育力が海外でどのように通用するかに焦点をあて、従来の文献学的手法に質的データ分析法を援用しつつ新たに構築した「文献学+質的研究」の方法論により論証しています。ぜひ一読ください。

昨年書きましたが、コロナ禍において稽古環境がままならないことも影響しているのか（日本もその傾向があります）海外においては剣道離れが著しく、どの連盟も会員数を大きく減らし財政的にも困窮しています。そうしたなか、若い年齢層に訴求力のある世界剣道選手権大会（WKC）の早期再開を強く望む声は各国から寄せられていました。WKC開催国は現在では立候補制で選ばれますが、2022年6月に行われたFIK書面総会の結果、次回19thWKCは

2024年7月4日～7日にイタリア・ミラノで開かれることが決定しています。

一方で、コロナに関する制限の緩和は、国や地域によって区々です。たとえばヨーロッパでは、医療機関内や公共交通機関内などを除いてはほぼマスク着用義務が緩和されている国が多く、その国の文化や法令との観点からマスクの着用可否的な国・地域が多くあります。

先にもふれましたが、日本の剣道界では剣道マスクとシールドの着用および鏢競り合い時の掛け声禁止を中心とする感染拡大予防策により、稽古・大会・審査等を継続してきています。そのこと自体は多とするものでありますが、このように国や地域によって感染予防対策や法令・文化に違いが出てきている状況下で、次のWKCに向けてどのような試合運営方法が最適であるか、難しい面があります。

昨年・今年の大会において、面マスク着用と経皮的動脈血酸素飽和度や心拍数との関係に関する研究発表がありました。現況において被検者やサンプル数の確保等なお難しい面があるかもしれませんが、ぜひ最新のデータや知見を提供・発信し続けていただきたく思っています。

こうした緊急性の高い研究への要望とは別に、一方で剣道・武道の意義・特性についてのマクロな視点からの研究も望まれます。日本の現代武道や古武術を真摯に修行しつつ、日本および東南アジアの武術・武道研究に大きな足跡を残した故Donn. F. Draeger（ドレーガー）が創始したホプロロジー（hoplology、武器学・戦闘学）という研究領域には、martial combative systems（軍用武術）とcivil combative systems（民間武術）という区分法がありますが、日本の現代武道はそこでは「民間武術」に位置付けられます。一方でDraegerは、日本武道の「道」を、「自己修養の手段としての旅であり、最終的には自己完成につながるもの」と認識していました（アレキサンダー・ベネット氏）。

先に紹介した「希望」「癒し」「教育力」などを含む剣道・武道の意義・価値について、今の時代に即した観点からとらえ直す研究の必要性を感じており、分科会会員各位の意欲的な研究発表や投稿、その成果の公開・発信に期待しています。

令和4年度日本武道学会第55回大会剣道専門分科会企画講演
武道学における精神文化史研究 序説
—研究方法論の探究—

講師：酒井 利信 氏（筑波大学体育系・教授）
司会：大塚 真由美 氏（東海大学体育学部・准教授）
阿部 弘生 氏（東北文教大学短期大学部・准教授）
日時：令和4年9月4日（日）14：00～15：30
場所：ハイブリッド（対面・オンライン）形式
共催：BUDO WORLD

1. イントロダクション

【阿部】これより、日本武道学会第55回大会剣道専門分科会研究会を開催いたします。改めまして、本企画は、武道ワールドとの共催の元、第20回武道ワールド・セミナーを兼ねて開催させていただきます。司会を務めさせていただきます、東北文教大学短期大学部の阿部弘生と申します。本日はよろしくお願いいたします。今年度の剣道専門分科会研究会は、「武道学における精神文化史研究 序説—研究方法論の探求—」と題し、酒井利信先生よりご講演をいただきます。多くの研究業績をお持ちの酒井先生より、これまでの研究の過程を、特に研究方法を試行錯誤されたご経験を中心にお話をさせていただけるということ



司会の大塚氏と阿部氏

で、有意義な時間になると考えています。90分という短い時間ではありますが、よろしく願いいたします。

【大塚】阿部先生と共に、本日の司会を務めさせていただきます、東海大学の大塚真由美です。酒井先生に気持ちよくご講演いただきますよう、精一杯務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。それでは酒井利信先生のご講演に移らせていただきます。

ご講演に先立ち、酒井先生についてご紹介させていただきます

す。酒井先生は、今回の会場とも隣接しております、桐蔭学園高等学校を1983年3月にご卒業されました。その後、1987年、筑波大学体育専門学群をご卒業。1990年、筑波大学大学院修士課程体育研究科を修了され、筑波大学体育科学系文部技官・助手、清真学園女子短期大学専任講師・助教授。2003年、平成15年に筑波大学体育科学系専任講師として着任され、2013年、筑波大学体育系教授にご昇任されました。その間、2002年、平



参加者は対面で約60名、オンラインで約30名と盛況であった

武道学における精神文化史研究 序説

—研究方法論の探究—

振り返り、近年の研究活動、今後の計画



酒井利信 (筑波大学)



成 14 年 3 月に、博士号（体育科学）を取得されました。

また、現在、筑波大学体育会剣道部において、副部長として後進の指導に当たっておられます。

現在、身体運動文化学会理事長、日本武道学会常任理事、武道文化フォーラム理事、全日本剣道連盟資料小委員会委員など、様々なお立場にてご活躍なさっております。

酒井先生のご著書、研究業績につきましては、講演スライド・資料にございますので、ここでは割愛させていただきます。なお、講演のスライドについては、お手元のパソコンやスマートフォンでご覧いただけるよう、Zoom の URL をお知らせしております。また、Zoom のチャットにて資料を配布いたします。適宜ご使用いただければと存じます。皆様におかれましては、講演の間は Zoom の音声とマイクをミュートにさせていただきますようお願いいたします。では、これより「武道学における精神文化史研究 序説—研究方法論の探究—」というテー

マにて、酒井先生のこれまでの研究の振り返り、近年の研究活動、今後の計画についてお話しさせていただきます。酒井先生、お願いいたします。

2. 講演

【酒井】ただいまご紹介いただきました、筑波大学の酒井でございます。今日は限られた時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。今ご紹介がありましたように、私はこの桐蔭学園出身です。中学高校 6 年間、この地に毎日通いまして、剣道の稽古並びに勉強をしていました。青春時代の前半ですね、非常に思い出深い、私にとっては大切な場所であります。そういった母校で、今回こういったお

話をさせていただくという機会を与えていただきましたことに、非常に感謝しております。何よりもご依頼いただきました、事務局の先生並びに準備をしていただきました先生方に御礼を申し上げたいと思います。それと、母校ということをお願いしましたが、今日は特別に、私の恩師であり、私の頃の桐蔭学園剣道部の監督であられました、十川英一先生にご臨席いただいております。ご紹介をさせていただきます。

それでは本題に入っていきますと思いますが、今回は第 55 回大会の剣道専門分科会並びに第 20 回武道ワールド・セミナーの共催ということになっておりますが、この武道ワールドとは何かといいますと、これは科研費のプロジェクトで始めたんですが、2012 年から武道文化に関する学術的情報を、日本語と英語で、アレックス・ベネット先生が今日いらっしゃるんですが、協力いただきまして、ネット上で配信をする、あるいはフォーラムを行うというようなプロジェクトを、もう 10 年ぐらいやって





きております。色々な映像も作ってきております。もし興味があれば見ていただきたいと思います。『武道ワールド』というふうに検索しますと最初に出てきます。この第20回の武道ワールド・セミナーとの共催ということで、今回はさせていただくということになります。

タイトルですけども、研究のことを話せということでしたので、私の研究してきた武道学における精神文化史研究についてです。まだ志半ばですので序説というふうにさせていただきましたが、研究方法論を中心に、今回の話をさせていただこうというふうに思っております。

それで、自分の研究をどうやってきたかっていうのはあんまり振り返ってきたこともないんですね。だから今回は非常にいい機会をいただいたというふうに思っておりますが、まずは自分がどういう研究をしてきたかということ振り返り、近年の研究活動として最新の研究成果をご紹介しますと思います。去年の武道学会で発表した内容になりますが、その後少しだけで

すが、今後の計画についてお話を、というような手順でレクチャーさせていただければというふうに思います。

今回色々振り返ってみてですね、それでもう家中ひっくり返して色々な写真を引っ張り出してきました。それで振り返って思うことは、やっぱり私自身、多くの先生方や人のご縁に恵まれてきたなということ、ずいぶん感じます。目標としては、『文武両道』ということを目指していますが、なかなか難しいんですよ。いつもこの辺にもう一人の自分がいて、「お前は両方中途半端だな」と言っています。もうちょっと頑張らなきゃいけないというふうに思っていますが、目標としては文武両道です。それで、このスライドの右の方が『武』です。左の方が『文』ですけども、『武』の方はですね、小さい頃から色々な先生方に剣道を教えてもらいましたが、今日ご臨席いただいています十川先生に教えていただいた剣道観というのが私の基礎になっているわけなんですけども、その後筑波大学に

進学をしまして、この右上ですね、これはおそらく佐藤成明先生の退官のときの写真ではないかというふうに思いますが、私が学生時代の部長でありました今井三郎先生と佐藤成明先生ですね、あと香田先生もここにいらっしゃいますが、お世話になりました。今はこの道場で学生と一緒に稽古をしながら、後進の指導にあたっております。

この右側の『武』の方をお話ししようと思つと、どれだけ迷惑をかけてきたかということになりますので、それはそれで面白いんですが、今日はこちらの方はちょっと措いておきまして、左の方の話になります。左の『文』の方ですが、私は武道学という領域ですが、この左上の写真は筑波大学の武道論研究室ですね、主任教授でありました渡辺一郎先生。それから、入江康平先生、藤堂良明先生にご指導いただいてきています。大保木会長いらっしゃいますか、大保木会長にもすごくお世話になりました。今はああいう感じですけど、当時はめっちゃくちゃでしたよね。本当にお世話になり、よく飲ませていただきました。こういった先生たちにお世話になったんですが、何よりですね、この武道論研究室で、一番やっぱり、何と言いますか、影響力が大きいのは中林信二先生ですね。東京教育大学に武道学科ができるときにこれを作り上げていった。渡辺一郎先生とですね。この中林先生ですけど



なので、科研費ですね。外部資金を獲得してきた状況というのが、どういふところで、どういふふうリンクしているかというのをわかるように表示しました。多分皆さん今ですね、小さく見えないじゃないか、というふう思っておられると思いますが、見えなくとも粗が見えますので、わざと小さくしております。

も私が大学4年生の春に若くしてお亡くなりになりました。私自身は中林先生に研究の指導を受けたことは、ほとんど記憶にないですね。4年生のときにお亡くなりになりましたので、ただ3年生から武道学のゼミに入っていましたから、悪さをして中林先生から他の先生に電話してもらって謝ってもらったとか、そういう記憶はあるんですけども、研究に関してはあんまり覚えていません。

ただ、中林先生がお亡くなりになった後ですね、当時技官をされていた前林清和先生が色々繋いでくられまして、この方は中林先生が懇意にされました高橋進先生ですね。この先生は哲学思想学系の先生であります。あと、実際に教えてもらっていないんですが、大学院のときに退官されました哲学思想学系の湯浅泰雄先生ですね。それから中林先生のご縁ではないんですが、別のご縁でお世話になりました竹本忠雄先生。こういった先生方の影響を多分に受けて今までやってきております。後ほどお話しますが、刀

剣の思想ということをおはやってきていますが、これは大保木先生に最初紹介していただいたんですが、藤安将平という刀鍛冶の先生です。宮入行平という人間国宝の刀匠がいますが、その高弟ですけども、この方とも親しくさせていただき、ここまで来ているということとでございます。

それで振り返りですけども、どういう仕事をしてきたのかっていうのは、どういう論文を書いてきたのかというのを見ると分かるかなと思ひ、ざっと書いています。左側が今まで書いてきた論文。右側は、我々の分野はそんなにお金がかかる分野ではないんですが、ただやっぱり研究費がないと研究ができません

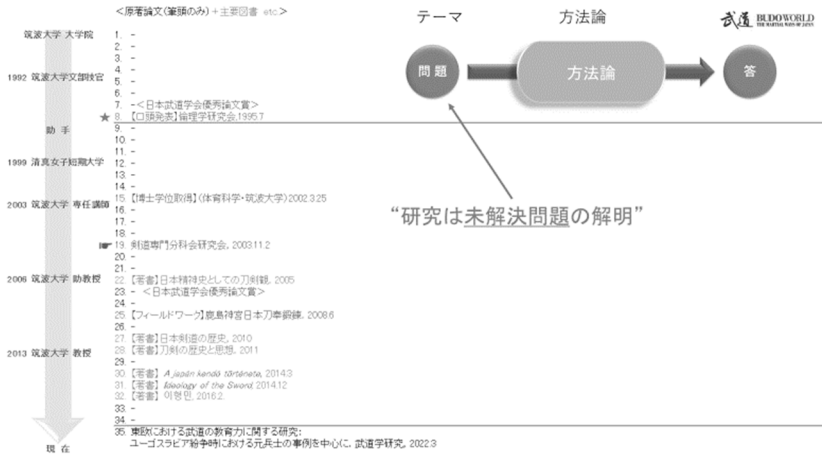
このスライドは原著論文ですね、筆頭の主要論文を並べまして、自分の経歴をここにザーッと書いて、いつごろどういう論文を書いたということがわかるようにしてみました。この中で大きな研究方法論上の転換期というのが2回あります。それが8番ですね。それから35番であります。その話を今日はしてみようというふう思っています。

今日は研究方法論の話ですので、まずは研究方法論とは何かっていうと、この図のイメージですね。その前に研究とは何か。勉強と研究は違うわけですから

<原著論文(筆頭のみ)+主要図書 etc>

1	日本における刀剣の形に關する一考察-中国との比較から- 武道学研究 22-112~21,1989
2	中世における刀剣の形に關する一考察-筆記物誌を中心に- 武道学研究 23-136~44,1990
3	新編生年記から刀剣の形に關する一考察-論理研究 53-9~46,1991
4	近世初期における刀剣の形に關する一考察- 武道学研究 24-326~34,1991
5	『水月問答』にみられる刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 1-133~39,1994
6	刀剣の形に關する一考察- 武道学研究 25-186~73,1995
7	刀剣の形に關する一考察- 武道学研究 26-312~22,1995 <日本武道学会優秀論文賞>
8	『口述歴史』に記される刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 3-13~14,1996
9	古代における刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 3-13~14,1996
10	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 3-13~14,1996
11	古代中国における刀剣の形に關する一考察- 論理研究 55-11~12,2000
12	古代中国における刀剣の形に關する一考察- 清見女子短期大学紀要 6.107~125,2000
13	古代中国における刀剣の形に關する一考察- 武道学研究 33-361~61,2001
14	『日本史学』に記される刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 4-11~12,2002
15	『日本史学』に記される刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 4-11~12,2002
16	新当流における刀剣の形に關する一考察- 武道学研究 38-39~20,2003
17	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
18	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
19	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
20	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
21	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
22	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
23	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
24	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
25	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
26	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
27	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
28	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
29	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
30	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
31	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
32	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
33	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
34	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
35	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
36	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
37	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
38	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
39	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
40	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
41	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
42	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
43	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
44	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
45	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
46	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
47	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
48	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
49	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
50	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
51	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
52	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
53	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
54	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
55	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
56	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
57	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
58	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
59	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
60	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
61	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
62	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
63	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
64	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
65	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
66	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
67	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
68	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
69	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
70	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
71	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
72	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
73	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
74	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
75	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
76	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
77	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
78	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
79	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003
80	刀剣の形に關する一考察- 身体運動文化研究 10-115~25,2003

大きな転換期



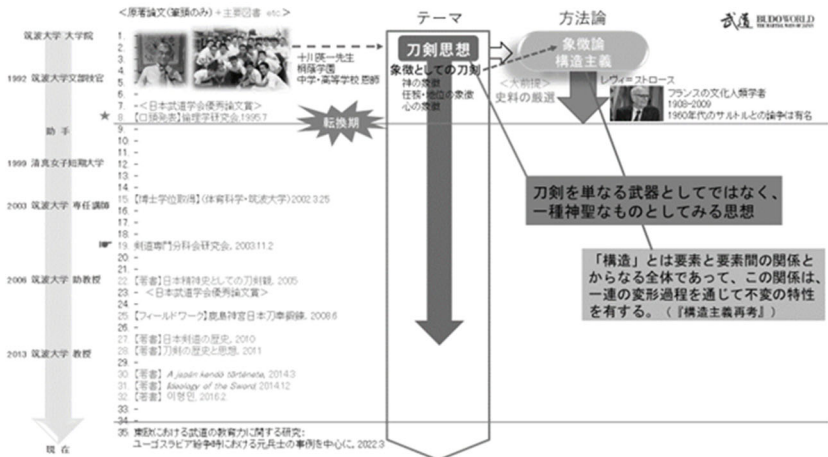
よね。勉強というのは、世の中で既にわかっていることを知識として身につけていくこと。研究というのは、世の中でわかっていない未解決問題の解明ということになります。この未解決の問題を、問題として設定し、何かブラックボックスみたいなものがあって、その中に問題が入っていくと答えが出てくるといふ、このブラックボックスみたいなものが研究方法論というふうには私の中ではイメージしています。今日は、こここの部分を中心に話をしていくということになります。

最初ですね、大学4年生で卒業論文のテーマを決めなきゃいけないというときに、さて何しようかというふうに考えたんですね。中学高校のときに十川先生に剣道を教えていただいて、この写真では十川先生の周りに暑苦しい子供がいっぱいいますが、この中に1人だけ利発な子供がいる。これが私ですが、そういった中で「打つんじゃないんだ。切るんだ」ということを随分習いましたね。それで卒論のテーマを決めるときに、「そん

なことを言われたな。どうも剣道の場面だけじゃなくて、日本人には刀剣を一種神聖なものとして見るような思想がありそうだ」ということに気が付きまして、これを研究テーマとしました。刀剣の思想というのは、「刀剣を単なる武器としてではなく、一種神聖なものとして見る思想」ということになります。これを何らかの研究方法論の中に入れていかなければいけないということなんですけれども、ちょうど亡くなった中林先生の荷物を先輩たちが整理しているときに、メモ書きみたいなものが出てきたんですね。そのときのメモを見ると、どうも刀剣というのは一種の象徴機能がある。例えば神社の御神体として

祀られている剣は、神の象徴として祀られている。それから三種の神器としての草薙剣、これは天皇の位、地位の象徴として機能している。「刀は武士の魂」といわれるのは、心の象徴としての機能があるということで、「象徴」ということがどうもキーワードになりそうということで、象徴論をずいぶん勉強しました。この象徴論を勉強していくとですね、レヴィ=ストロース (1908~2009) という人が出てくるんですよ。これはフランスの文化人類学者で、1960年代に「構造主義」を提唱して一世を風靡してますね。サルトルとの論争も有名ですけども、このレヴィ=ストロースというのがやたら出てくる。そこでレヴィ=ストロースを勉強するしかないということで、レヴィ=ストロースの構造主義を徹底的に勉強しました。

構造主義というのは何かというと、「構造とは、要素と要素間の関係からなる全体であって、この関係は、一連の変形過程を通じて不変の特性を有する」。何を言っているのかわからないと





思うんですが、この要素とは何かということ象徴としての刀剣、そして象徴対象としての神であるとか心であるとか、それを認識する人間、この三者の関係が一定の関係性を保ちながら何か変形していく、どういう変形をしていくのかっていうことを解明しながら、論文を書いていったっていうのが、この7番までの論文です。

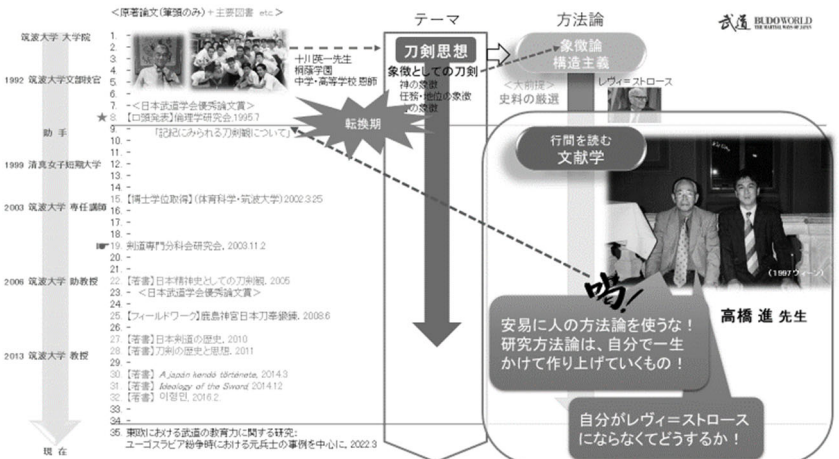
この7番の論文は日本武道学会で優秀論文賞をいただいています。それで8番ですが、実は先ほど言いました高橋進先生ですね。中林先生が亡くなった後に、前林先生に引き合わせてもらいましたが、まず「お前たち、先生が亡くなったら苦勞するぞ」と。剣道七段の先生です。中林先生との関係もあって、「僕にできることだったら何でもするから」というようなことも言っていたと思います。それで、この高橋先生が主催をしている倫理学研究会ですね。これは筑波大学の哲学思想学系の倫理学教室が主催をしているものですが、箱根の強羅で毎年夏やるんですね。1泊で、1人の持

ち時間が1時間です。40分発表の20分質問ですね。ここで「発表してみないか」と言われました。これは怖かったですね。当時、体育系の技官でした。体育系の人間が哲学思想のプロパーの前で1時間喋るといのは、これは本当に怖かったですね。だけど、これは勝負するしかないんですよ。だから、お願いしてやりましたね。

全部出したんです、全部。この象徴論も全部話しました。今までやってきたものを全部出そうと思って。そしたら、みんな結構「面白い」と言ってくれましたよね。「何よりも自由だ」と。それは先生がいないから自由です。こういうことを言ってもらって、ちょっと調子に乗っ

ていたんですが、もう最後の最後ですね、高橋先生からのすごい怒られました。一喝されましたね。「安易に人の方法論を使うな、研究方法論は自分で一生かけて作り上げていくものだ」と。もう会場がシーンとしましたね。それで「自分がレヴィ=ストロースにならなくてどうするんだ」ということを、もうガツンと言われました。それでもうどうしようかと。学会賞ももらっています。しかし、もうこの研究方法を全部捨てました。今考えれば、それで良かったと思います。刀剣の思想みたいな生身の人間の精神性の問題を、こういった構造主義に基づいた象徴論のような、無機質なものにしてしまったらやっぱりいけなかったんですよ。

高橋先生に怒られまして、そこから高橋先生に指導していただくようになり、まずは「和辻哲郎の『日本精神史研究』を読みなさい」ということを言われました。何回も読んだんです。何回も読みましたが、全然わかりません。未だにわからない。もう研究方法論が前に全然出て



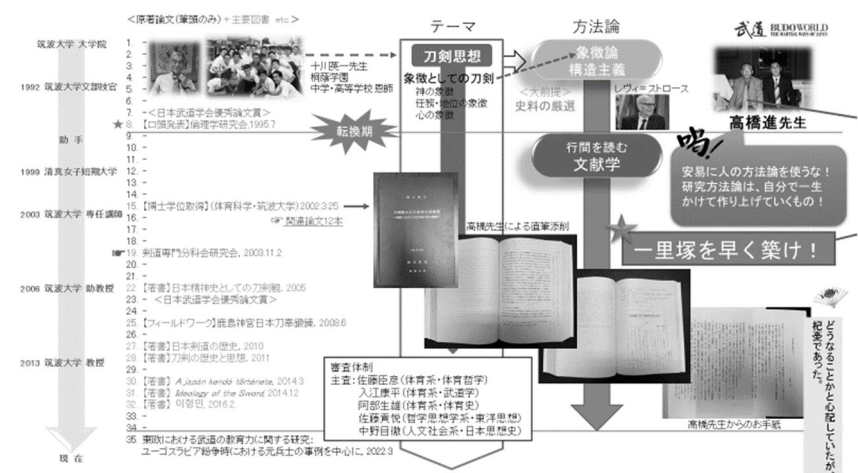


こないんですよ。だけど、やっぱり人文科学の研究とはこういうものなんだっていう、ものすごい迫力がありましたよね。これを教えてくれたのかなあというふうに当時思いましたね。

それで、高橋先生は色々教えてくださいましたんですが、高橋先生が博士論文を書かれる時に、当時は若くして博士をとる人なんてほとんどいなかったんですね、それを30代で博士をとられた。「その時には手書きでカードを書いて、そのカードが下から積み上げると胸の高さまで来るぐらいまで俺はやったんだ」と、高橋先生が言われるわけですよね。だけどそのときは、何て言いますか、高橋先生は古い人だからこうやってやったんだけど、今はコンピュータソフトでカード型のソフトがいっぱいあるから、データベースを作っていて、それに打ち込んで検索していけばいいんだと思って、そういうふうなやり方をやったんですよ。そしたらね、一向に駄目ですね。一向に考えが深まらない。ということで、やってみました。高橋先生のカー

ド法ですね。これは格段に研究が進みましたね。手書きで、キーワードをつけて、通し番号をつけて、キーワードごとに分類していくんですが、これは、1つは情報の圧縮です。ですから、資料を精読しなきゃ駄目ですよ。精読しないとどこをカードにしていかわからないから、全部書かなきゃいけなくなる。写経みたいになっちゃう。だけど精読した後に、大事なところだけを手で書いて、そういうことによってこの資料の内容に入り込んでいく、有効な方法なんですね。ですから資料そのものにダイレクトな答えはないです。そのまま書いてないですから、刀剣の思想がどうかなんて『古事記』の中には書いてい

ない。だから、行間を読むといいますが、その資料の奥にあるものを読み込んでいくための、この方法というのがカードで書いていくということだというふうに、私は理解しています。それを「カード法」というふうに私は言っていますが、これは人文科学の研究では効果がありますね。だからこればかりやりましたよ。もう空いている時間はそればかり。これを900枚以上書きました。最初はボールペンで書いたんですよ、そうしたら肘を痛めるんです。小さい字を書くと。えらい目にあいりましたが、その時に佐藤成明先生に「カードを書き過ぎてビールジョッキも持てなくなったんですよ」と言ったら、「ビールジョッキって言うな、竹刀かペンと言え」とえらく怒られたのを覚えてますけども、そのぐらいやりました。それがあつたので、高い万年筆を買って、万年筆で書くようになった。万年筆は大したものですよ。効果がありました。こうやってなんとなく、自分のイメージというのがまとまってきたら、絵を書く





んです。床に大きい模造紙を置いて、そこにマジックで絵を描く。それで自分の考え、思想構造というのをまとめていく。これは数学の先生に教わったんですが、ノートに絵を書いてもいいんですけども気持ちが小さくなる。大きい絵を描くと、気持ちが大きくなって、研究自体も大きくなる。こういうやり方をしてきましたね。

もう1つですね。高橋先生から言われ続けたのは、「一里塚を早く築け」ということをずいぶん言われました。一里塚、これは何かというと、早く博士論文を書いて学位をとれよ、ということです。「お前は叩き大工になるのか」ということも言われましたね、「誰でもできる仕事を一生やっていくつもりか。そうじゃないのであれば、まずは一里塚、学位を取るように」ということを言われました。それで、実は2回怒られてるんですよ、高橋先生に。一喝されたことがもう1回あります。目白大学の学長をされていたときに、「研究計画をちょっと見せてくれないか」と言われて、目白の

学長室に持っていったんです。ただ、まだまだだったんですよ。自分ではまだまだとわかっていても、行かないわけにいかないから、それなりのものを取り繕って持っていったんですが、その時は何も言われなかったんですけど、その後ですね、学会の理事会が終わった後、大体お寿司屋さんで一緒にビールを飲んだりするんですが、そのときに「酒井君甘いな！」と。その時、高橋先生の弟子で佐藤貢悦先生が、この人はもうすごいです、一番弟子です。かばってくれて、「酒井先生は何でもできますから大丈夫ですよ」と。そしてら高橋先生が、「甘いつて言ったら甘いんだ！」と。いうことで、そ

でシャキッとしましてですね、そこからスイッチが入ったということなんです。

それで博士論文を書きました。高橋先生にはもう一字一句揺るがせにすることなく読んでいただきまして、こういった形で、鉛筆でずっと書き込んでいただいてですね、指導をしていただきました。これはなかなかできないです。正式には自分の指導学生じゃないですから。そういった者にここまでやっていただいた。これ、何時間かかるかわからないです。自分の指導学生の手紙を読むのでも、忙しいときに原稿を持ってきたらイライラしますから。だけでも、それを徹底的にやっていただいて、最後はお手紙をいただきましたね。「どうなることかと心配したが杞憂であった」というお手紙で、本当に泣けました。

高橋先生のおかげで、学位を取ることができ、その後高橋先生直伝の行間を読んでいく文献学で、27年間論文を書いていったわけであり。様々な人の影響を受けながら、自分独自のものと変えていって

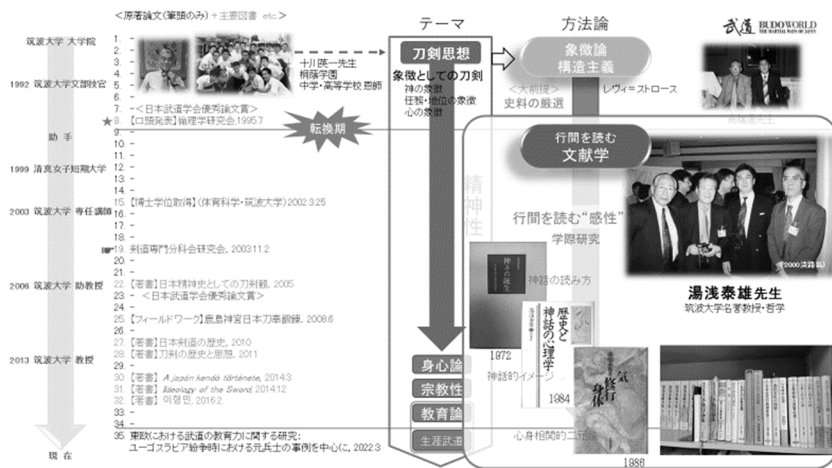
<原著論文(筆頭のみ)+主要図書> etc

1	日本における刀剣思想の形成に関する一考察-中国との比較から- 武道学研究 22-112~21, 1989
2	中世における刀剣観に関する一考察-筆記物語を中心に- 武道学研究 23-136~44, 1990
3	新編養生堂にみられる刀剣観に関する一考察 倫理研究 9-57~66, 1991
4	近世初期における刀剣観に関する一考察 武道学研究 24-326~34, 1991
5	『水月問答』にみられる刀剣観に関する一考察 身体運動文化研究 1-133~39, 1994
6	刀剣観分析における精神論について-構造主義の立場より- 武道大学体育科学年報 18-63~73, 1995
7	刀剣観における精神的イデオロギイの位置づけに関する一考察-構造主義的視点による近世前期行書の分析- 武道学研究 27-312~22, 1995 <日本武道学会優秀論文賞>
8	【口述集】記述にみられる刀剣観について-第3回倫理学研究会特別刊行1997
9	古代における刀剣の儀礼に関する一考察 身体運動文化研究 3-11~14, 1996
10	刀剣文化史学に関する古代史の動向について-武道学研究 21-40~54, 1998
11	古代中国における刀剣観に関する一考察-漢代以前の歴史学-小沢を中心に- 倫理学 15-11~26, 1998
12	古代中国道徳における刀剣観について-清真女子短期大学紀要 6-107~125, 2000
13	古代東アジアにおける刀剣の儀礼-李阿から新羅- その呪術的言語- 武道学研究 33-351~61, 2001
14	神の象徴としての刀剣-神社にみる刀剣を中心に- 身体運動文化研究 9-11~12, 2002
15	【博士学術論文】刀剣の日本精神史的研究-剣術における文化史的考察- (体育科学・武道大学) 2002 325
16	新当流における刀剣観について-兵法自衛観を中心に- 武道学研究 38-39-20, 2003
17	剣の観念にみられる神祕的要素について- 身体運動文化研究 10-115~25, 2003
18	三種の神器に関する研究-剣の観念の史的考察- 武道学研究 38-1, 1-20, 2003
19	剣術における文化史的考察-刀剣の日本精神史的研究- 日本武道学会剣道専門分科研究会, 2003 112
20	剣術の空間観念における神祕的要素について- 身体運動文化研究 11-119~21, 2004
21	刀剣の儀礼性について-古代史の動向について- いはら健康・スポーツ科学 22-9~17, 2004
22	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
23	記述にみられる刀剣観について-水と火にかかわる生感の呪術- 武道学研究 41-1, 1-15, 2008
24	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
25	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
26	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
27	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
28	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
29	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
30	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
31	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
32	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
33	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
34	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
35	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
36	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
37	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
38	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
39	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>
40	【口述集】記述にみられる刀剣観について- 武道学研究 38-1, 1-15, 2006 <日本武道学会優秀論文賞>

高橋先生直伝 行間を読む 文献学

27年

様々な人の影響を受けながら 自分独自のものと変えていって



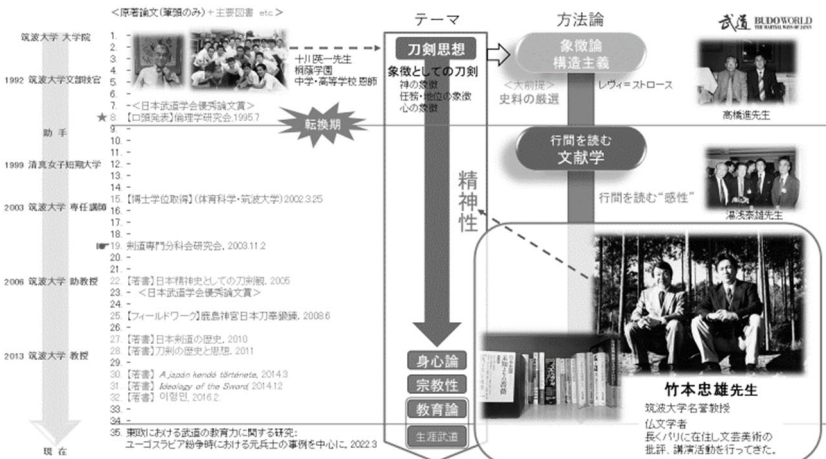
ものへと改変しつつやっていたんですが、どういう人からの影響を受けたかという、まず第一が湯浅泰雄先生ですね。直接指導していただいたことはないです。ただ、大学院のときに最終講義を聞きに行って、最終講義の内容はレヴィ=ストロースの内容が入っていたと思います。何て言いますかね、行間を読む感性ですよ。これがやっぱり、もうすごいなと思って。この感性を磨いていかないと、皆同じ文章を読むわけですから、だからこれをどう磨いていくかっていうことです。やっぱり湯浅先生から学びたいなっていうことがあって、今も覚えていますけど、大学院の1年生から2年生になる春休みに道路工事に行って、18万円もらいました。それで、湯浅先生の本を全部買ったんです。そうした本ってよく読みますよね。この『神々の誕生』とかですね、それから『歴史と神話の心理学』であるとか、『気・修行・身体』であるとか。もうこの辺にはすごい影響を受けましたね。

この『神々の誕生』も、神話の読み方がやっぱりすごくて。『古事記』じゃなくて『日本書紀』を取り扱うんですけど、『古事記』と違って『日本書紀』っていうのは、本文があって、その他に古くから伝わっている別伝をずっと載せるんですね。「一書に曰はく」第一、第二、第三、第四、第五と、それをずっと並べて比較をやっていて、神話の中でモチーフが結合するとか、それから神話に新しい古いがあるというようなことを論及する。そういう読み方があるのかというのを教えてもらいましたし、この『歴史と神話の心理学』は、私は論文のキーワードに「神話的イメージ」というのがありますが、これは湯浅先生

この研究からの援用です。すごく影響を受けました。それから「心身相関的二元論」というのは、『気・修行・身体』から影響を受けています。

それから次、竹本忠雄先生ですが、フランス文学の先生です。フランス在住が長いんです。ですから、外から見ると日本の武道の精神性というのがいかに素晴らしいかということがわかるんですね。宮本武蔵が大好きですよ。独特な先生でした。ご自宅に呼んでいただいて、もう何時間もレクチャーをしていただいて、これは私にとって財産ですよ。自分がやっていた刀剣の思想というのが、日本人の精神性に関する問題だと、精神文化の問題だということをはっきり認識するようになったのは、竹本忠雄先生のレクチャーのおかげです。

本もいっぱいいただきましたしね。三島由紀夫の本ですが、「私の三島論を知っていますか」とかですね。これなんかもすごかったですね。アルフレッド・スムラーという人ですけども、フランス人ですね。ナチ



行間を読む
“感性”



竹本 忠雄
アンドレ・マルローと最も親しい日本人研究者。日本の精神性を「聖なるもの」として論評を著る



(左) 倫理研究所富士教育センターにて 1997.1.21

スの占領下にあったフランスでレジスタンス活動をして、アウシュビッツに収監されるんですが、そこでの過酷な経験に耐えて、奇跡的に生還し、その人が日本で亡くなるわけですけども、戦後に。その人の話を竹本先生がまとめているわけです。竹本先生が言われたのは、「あなたたち体育の人間は、筋肉の強さでない人間の強さっていうのがあるのを自覚しなきゃいけない」ということを言われましたね。インテリですよ。ひ弱なですね。それがアウシュビッツで耐え抜いたということですね。竹本先生は筑波大学を退職されてから、一時、倫理研究所富士教育センターに居られたことがあって、よく日本酒を持って遊びに行きました。よくしてもらいましたよね。竹本先生の代表作はこの『マルローとの対話』です。アンドレ・マルローはフランスの作家ですけども、ドゴール政権の文化大臣をしたんですが、日本にも来ています。このマルローと一番親しかった日本人研究者が、竹本先生というふうに言われています。結局、

外から見た日本文化の素晴らしさというのを、竹本先生は僕に教えてくれたというふうに思っています。

やっぱり、その行間を読んでいくのに、ただその文章を読んでいたら、どうにもならないんですよ。なので、その感性を磨いていかないといけない。そういうことで色々フィールドワークをしました。それで、刀剣の思想ではやっぱり山伏の思想、修験道の思想って大きいんですよ。やっぱり文献ではわからないので、行きましたよね。修験道思想の取材に。この写真は兵庫県の三木市ですけども、あと六甲山の中なんかも行きました。車で山の中に行って、朝早く着いて車の中で寝てたんで

すよね。山伏の人に見つかってね、怖いんですよあの人たち。ものすごく怒られて。でも、実はこういうことでと、一生懸命説明したら、逆にすごくかわいがってくれてですね。この山伏の護摩壇の儀礼をしているときには、「坊主ちょっと上がって来い」と、やぐらの上に乗せてもらって、「ここから写真撮れ」とかですね。

最後にこの燃える護摩壇を崩して行って、道を作るんですよ、火の道。それでこの山伏の人たちはそこを歩くんですよ、火渡りです。「坊主それやるか」って言うんですよ。「やるかって燃えてんじゃんよ、これ」って。だけど、やらない選択肢はないんですよ。歩きました。

色々なことをしましたね。あと草薙剣が壇ノ浦に沈んでいるっていうから、壇ノ浦に行っただけですよ。壇ノ浦自体はもう観光地になっていて、さほど感じるものはなかったんですけども、ちょっと後ろを見ると神社があった。何気なく入ってみました。そうするとそこが、源平の合戦で平家が壇ノ浦で滅亡す

フィールドワーク

肌で感じる
↓
行間を読む“感性”を養う



修験道儀礼
兵庫県三木市



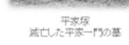
赤間神社
源平合戦、平家滅亡の現場之洲に沈んだ安徳天皇を祀る



鹿島神社
奥宮
徳川家康が関ヶ原戦勝祈願で参拝



熊野三山
那智の滝



平家権
滅亡した平家一門の墓



御手洗池

【科学】修験道思想にみられる刀剣観に関する研究(奥原研次氏)
1998 - 1998

本当に分かっているのか？



るんですが、そのときに安徳天皇と共に草薙剣が壇ノ浦に沈んでいく、その安徳天皇を祀っているのがこの赤間神社だったんです。そうかと思っていたんですけども、その奥に行ったところに、これは何かということ、お墓です。滅亡した平家一門のお墓がそこにある。この空気がもうすごいですよね。だからこれはね、やっぱり『平家物語』とか、『太平記』とか読んでもわからない。中世密教の世界っていうのはこういうものかっているのはやっぱり肌で感じましたね。

それから鹿島神宮ですね。これはやっぱり刀剣の思想では非常に大きいんですけども、武の神様、剣の神様であるタケミカヅチを祀っている鹿島神宮。先週も行ってきました。宮司と話をしてきましたけど。こういったところによく行ってですね、やっぱり肌で色々なものを感じるようにしています。何のためかということ、行間を読むためですね。そういうこともしてまいりました。ただですね、何でこういうことをしてきたかっていう

と、文献を読んでいて、本当に分かっているのか、というのがどこかにいつもあったんですよ。だからやっぱり肌で感じなきゃいけない。そういうことで刀剣の思想をやっていたから、最初、大保木先生に連れて行っていただきましたが、藤安将平刀匠ですね。福島で刀鍛冶をされていますが、みんな一緒でしたので、名刺だけ置いてきたんです。その後、娘さんが筑波大学の芸術専門学群に入学されるということで、引っ越しを手伝ったりとかしているうちに仲良くなったというような流れですね。それで実は昔、鹿島に4年ぐらい住んでいたことがあるんですが、そのときは鹿島神宮に毎朝、出勤する前にお参り

してから学校に行きました。なんでかということ、ひどい女子短大で、「今日は何もありませんように」とお参りしてから学校に行っていたんですね。それを、当時の権宮司（今の宮司）が見てみたいですね。それとは別に塚原ト伝のプロジェクトをやるということで、鹿島市の関係の人たちが来てくれましたね。そのプロジェクトで、鹿島神宮と引き合わせていただきました。そのときにやっぱり刀剣の思想を本当にわかっているのか、っていうのがあったので、たまたま科研費で研究費を持っていましたので、『常陸国風土記』に、慶雲元年、704年に佐備大磨（さびのおほまる）という人が、鹿島で砂鉄を集めて、それで大きな直刀を作った。それが今の鹿島神宮に祀られている、国宝としての劔霊剣だというふうに言われているんですが、1300年ぶりに鹿島神宮の境内で、そういった神事儀礼ができないかというふうに考えまして、藤安刀匠とそれから鹿島神宮の宮司を引き合わせてですね、これがうまくマッチングし

↓

行間を読む
“感性”

鹿島神宮奉納鍛錬
肌で感じる神の気配

藤安将平 刀匠
人間国宝・故宮人行平刀匠の高弟
福島市立山に鍛冶場を開設
伊勢神宮第61回式年遷宮において
御神刀作製
靖国神社、熱田神宮において奉納
鍛錬を行う

<動画> <https://budo-world.taiiku.tsukuba.ac.jp/> 武道 BUDOWORLD

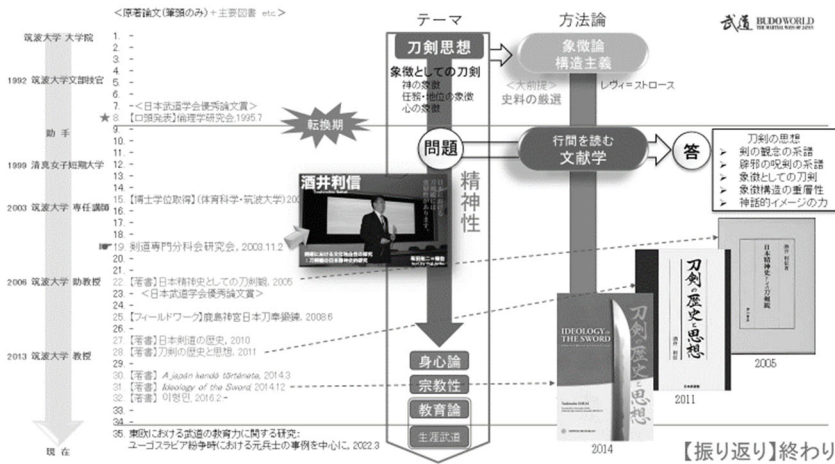
2008年6月6～9日

修球 殿 打初奉告祭 鍛冶場清浄の儀

折り返し鍛錬 宮司参加権打 焼き入れ

経切り 奉納刀完成

2008年9月1日 勅使参向例祭による奉納の儀



たということで行ったのがこの鹿島神宮の日本刀奉納鍛錬になります。このときは、最初はですね、この御手洗といって禊をするところがあるんですけども、火を使うものですから、本殿などは重要文化財ですので燃えたじゃすまない。なので、この御手洗の辺りの水のある所、本殿から遠いところでさせてもらおうというふうに思ったんですけど、宮司が「いや、いいんだ」ということで、もうここ、本殿の真横ですよ。本殿の真横でやってくれと。最初、宮司と一緒にいったときには、垣根の内側ですね。だから普段は入っちゃいけないところです。人間が入っちゃいけない御神域です。そこを開けてくれて「ここでやってください」ということで、刀匠と一緒に中に入れてもらいました。その垣根の内側っていうのは、これは御神域です。僕はそういうのあんまり敏感じゃないんですが、その垣根の内側に入った途端に空気が変わる。神の気配っていうのはこういうもんだというのを感じましたよね。

それでさせていただいたのが、この神事儀礼として行った日本刀奉納鍛錬です。こうやってお祓いをし、禊も御手洗に入ったんですよ。何て言いますか、神宮の方では「もうそこまでしないで、水をちょっとかぶるだけでいい」と言ってる。かぶる桶まで、神宮の杉の木で、ちゃんと特別に作ってくれていたのに、刀匠が「入る」っていうから、もう刀匠が入るなら自分も入るしかない。これも神事儀礼としてこうやって行いました。鹿島神宮というのは、伊勢神宮とならんで天皇家から大切にされている神宮です。ですから宮内庁から直接勅使がやってくる、6年に一度の勅使参向例祭の時にこれを奉納させていた

だいたということがありました。

こういうようなことをしながら、やってきました。行間を読む文献学としての研究方法論に、問題を入れていったということですけども、どういった答えが出たのかっていうのはですね、実は私、2003年にこの研究会でお話しています。もう1回話したので今日はしません。答えはここに書いています。『日本精神史としての刀剣観』ですね。これを読んでください。その後、刀剣の思想の他に、身体論であるとか、宗教性であるとか、教育論であるというような、武道学における精神文化史の論文を書いてきました。ここまでの振り返りです。

次ですね、近年の活動ということですけども、ありがたいことに最近海外での活動もさせていただいております。それでキーパーソンになるのは、同級生ですね、阿部哲史。ハンガリーに30年もいますが。あとミハイク・フノール。これは阿部先生とコンビになっていますけども、ハンガリー剣道連盟の事務

【近年の研究活動】

◆ 海外での活動



Key Person
Mihalik Hunor
Secretary General of the Hungarian
Kendo Federation
It's your responsibility!
2004



2005 フィンランド 全日本剣道連盟派遣講師
ナショナルチーム・コーチ



2007~ ドイツ・ヘッセン州剣道連盟 トレーナー



2007~ ハンガリー・カップ、セミナー 講師
Key Person
阿部哲史
ハンガリー在住



2009~ ルーマニア セミナー 講師

Key Person
Carmelia Spuru
Vice President of the
Romanian Kendo Federation



2017~ ルーマニア
ナショナルチーム・コーチ
2018 16th World Kendo Championship

1. Japanese Spirit and Japanese Sword. Japanese Day, Embassy of Japan, Helsinki FINLAND, 2005.4.10
2. Brief History of Kendo. Kendo Seminar, Hessen Kendo Federation, Frankfurt GERMANY, 2007.3.10
3. Kendo from the days of samurai to modern times. Kendo Seminar, Hungary Kendo Federation, Budapest HUNGARY, 2007.8.2
4. Kendo and its unique mentality. Kendo Seminar, Hessen Kendo Federation, Frankfurt GERMANY, 2008.3.2
5. Great swordsman and his unique mentality. Kendo Seminar, Hungary Kendo Federation, Budapest HUNGARY, 2008.7.17
6. Japanese Deep Spiritual World: Sword Ideologies. Kendo Seminar, Hungary Kendo Federation, Budapest HUNGARY, 2009.7.13
7. Spiritual Sword Ideal in Japan. Kendo Seminar, Hessen Kendo Federation, Frankfurt GERMANY, 2009.12.19
8. Kendo-past, present and future. Hungary Cup-BAMIS Seminar, Budapest HUNGARY, 2011.7.21
9. Body and Mind Integration in Budo. Hungarian Sports Science Association, Budapest HUNGARY, 2011.10.20
10. Budo Study in Frankfurt 2011. Kendo Seminar, Hessen Kendo Federation, Frankfurt GERMANY, 2011.12.17
11. Bird's eye View of Japanese Budo. Eötvös Lóránd University, Budapest Hungary, 2013.3.12
12. Introduction to the Budo Study. The Gate of Dharma Buddhist College, Budapest Hungary, 2013.3.16
13. The heart and technique of Kendogu Craftsmen. Hungary Cup Kendo Seminar, Budapest HUNGARY, 2014.7.24
14. Japanese Culture - The heart and technique of Kendogu Craftsmen. Russo-Japanese cultural exchange programs, Japan Russia Youth Exchange Center, Saint Petersburg RUSSIA, 2015.7.23
15. Outline of Budo History - From fighting Techniques to Means of Education- Romania Kendo Summer Seminar, Brasov ROMANIA, 2016.8.5
16. Kendo/Budo as Education: lifelong self cultivation. Romania Kendo Seminar, Bucharest ROMANIA, 2018.3.7
17. Educational Power of Budo (Martial Ways). 2nd Budo World International Forum, Budapest 2019, Budapest, Hungary, 2019.8.28
18. The bird's eye view of Japanese Budo (Martial Ways). 2nd Budo World International Forum, Budapest 2019, Budapest, Hungary, 2019.8.28
19. The Japanese concept of technique and education theory in "Neko no Myojutsu" (The Cat's Eerie Skill). 2nd Budo World International Forum, Budapest 2019, Budapest, Hungary, 2019.8.28
20. Educational Power of Budo (Martial Ways). 13th Budo World Seminar (Online Conference), Tsukuba Japan - Romania, 2020.3.22

武道 BUDO WORLD

<文化講演>
 フィンランド:1回
 ハンガリー:11回
 ドイツ:4回
 ロシア:1回
 ルーマニア:3回
 合計 20回

ましたので、フィンランド剣道連盟から「講演をやってもらえますか」と聞かれ、「はい、やりますよ」と言いました。「通訳をつけますか、英語でやりますか」と聞かれて、「英語でやります」と言ってしまったんですね。1時間英語でやりました。この準備は大変だった、何ヶ月もね。でもその後は甘やかされていて、全部現地語で通訳がついています。今回 Zoom でこの会議に入っているカメラア・スピルが、ルーマニアですね、今、私に英語を教えようとしているんですよ。毎週1回1時間 Zoom を使って、英語でミーティングさせるんです、この人は。このミーティングがある日は昼ぐらいからもうお腹が痛い。英語じゃなきゃいけないからですね。

海外の活動で気づいたことがあるんですが、日本の場合、武道は教育的側面が強調されつつ現代社会の中に位置づけられています。教育の目的は人間形成であるということは言うまでもないですが、現在、武道の目的も人間形成ということを謳っており、ここに武道の教育的価値が見出されていることは間違いない。でも、これは海外だと通用しないんですよ。従来からの課題であります、ネガティブな要因・阻害要因と言ってもいいと思いますけども、そもそもですね、教育としての武道への理解不足がある。元々、戦いの技術だったものが何で教育に

局長になりますね。それからカメラア・スピル。ルーマニア剣道連盟の副会長です。この辺の人たちが、私をずいぶん使ってくれて、色々な活動をさせていただいているということですね。発端は、ミハイク・フノールが、2004年に1週間ぐらい私の家に滞在したことがあるんですね。彼は日本語が喋れないので、英語しか喋らなくて、えらい目にあいましたが。彼が帰ったあと、頭の奥が痛いんですよ。言葉のストレスですよ。この人が色々言うんですよ。「今、ヨーロッパでは武道の文化性に対する興味はものすごくある。デマンドはものすごくあるのに、情報がない。英語で書いたまともな文献すらない」というようなことを言うんですね。それで帰る直前に、「It's your responsibility (お前の義務だ)」というようなこと言って、帰ったんですよ。それでそうかと思って始めたのが、先ほどの武道ワールド・プロジェクトみたいな活動です。それで、この『日本剣道の歴史』といって、これは「月刊剣道日本」に

連載をしたものですが、ベネツト先生が翻訳をしてくださいます。左のページが日本語、右のページが英語というような本を出しました。これね、すごく人気あるんですよ。剣道日本、それを自覚していないんですけど。今日来ているのか。自覚してないんですよ、再販しないんですよ。これ、すごく人気があって、ハンガリー語訳されたりとか、韓国語訳されたりとかして、現地で出版、発売されていますよね。

実際の本格的な活動は、2005年に全剣連から派遣されてフィンランドに3か月ほど行った。そこから、ドイツ、ハンガリー、ルーマニアというような国で活動をしています。実技がメインなんですけど、全てのセミナーで、先方からの要請で、1時間ぐらいの文化講演をしてきています。どういう文化講演をしたかっていうと、こういう文化講演ですが、もう20回もやってきています。英語で喋ったのは1回目だけです。2005年ぐらいのときは、何か頼まれたときは断らないというふうに決めてい

◆ 海外での活動で気付かされたこと

日本

< 武道の教育的価値 >
 武道は、教育的側面が強調されつつ現代社会の中に位置づけられている。教育の目的が一つに「人間形成」であることは言うまでもないが、現在、武道の目的も「人間形成」であることを踏っており(武道の理念: 日本武道協議会 2008)、ここに武道の教育的価値が見出されていると考えられている。

欧州

< 国際展開におけるネガティブな要因 >

- ◆ **教育としての武道の理解不足:**
 そもそも戦いの術であった武道が何故教育として位置づけられているのか理解できないという声が多い。これは日本において自明のことと思われているが、外からの目で大きく俯瞰した時、この疑問は当然のこととして理解できる。特に生涯武道に関する意識は希薄である。
- ◆ **キリスト教社会における武道による人間形成の拒否:**
 東欧を含む欧州においてはキリスト教を中心とする巨大宗教が人々の道徳教育を担ってきた歴史があり、異文化の武道による人間形成に理解を示さない場合が多い。
- ◆ **心身二元論社会における心身関係論の否定:**
 欧州はデカルト以来、伝統的に心と身体を分けて捉える心身二元論が思考のベースにある。そのため「心身一如」のような心身関係論を理解することが難しい。

従来からの課題

しかし、近年変化が...



なるんだという。それもそうですよね。ちゃんと説明しないとわからない。それからキリスト教社会ですから、人々の道徳教育は、キリスト教がやってきたんですよ。それを東の島国からやってきた、竹の棒で人の頭を殴って、柔道なんか人を投げて首まで締める。そんなもので何が人間教育だということで拒否される。それから、特に欧州は心身二元論社会です。デカルト以来、心と身体を分けて考えます。それで近代科学が、飛躍的に発達したことは確かなんです。しかし、日本の武道の場合は、稽古を通して心を変えるわけです。身体の活動を通して心にアプローチしていくというのが特徴です。そういったものっていうのは、理解できない。

しかし、近年変化がみられます。自分たちの文化に欠けるものとしての精神文化への憧れみたいなものがちょこちょこ出てきている。

それからハンガリーですけれども、1989年に体制転換がありますよね。共産主義から資本主義

経済が変わったわけです。そうすると、「お金だけが価値があるものだ」みたいな感覚が青少年の間に蔓延して、道徳意識がものすごく低下する。国としてこれをどうするかとなったときに、国家プロジェクトとして、「武道を青少年の道徳教育に活用しよう」というプロジェクトが起こって、これに少し私も関わりましたが、政局が変わって頓挫しましたけれども、ここには、教育としての武道が機能していく萌芽が見られるわけですよ。

もう1つ、これが強烈だったんです。2008年にハンガリーカップで、阿部先生に呼ばれて講演をしたんです。1時間。「Great swordsman and his

unique mentality (剣豪とその心法論)」というタイトルで講演をしました。その時に、講演後みんなでビールを飲んでワイワイ騒ぐんですけど、すごく楽しいです。もう暑くてクーラーがなくて、みんなでビールを飲んで、何十リットルって、ガソリンかっていうくらい飲んだんですけども、そのときに、ある青年が私のところにきて、「先生、今日の話、面白かった」と。どういうことかっていうと、「自分はユーゴスラビア紛争の時にスナイパーだったんです。峠で相手を待ち伏せして、実際に敵を撃とうとすると目の前に白いブラインドみたいなものがかかってきて撃てない。今日の先生の話はそれをどうしようかっていうその心法論の話でしょ」という話をされました。僕はすごく困惑しました。ここまで人殺しの技術を教えにきているわけじゃない。ものすごく困惑しましたね。でもずっと自分の中で答えが出なかったです。彼とその後なかなか会えなかったんですが、毎年ハンガリーカップに呼ばれるたびに、阿



< 国際展開におけるプラス要因 >

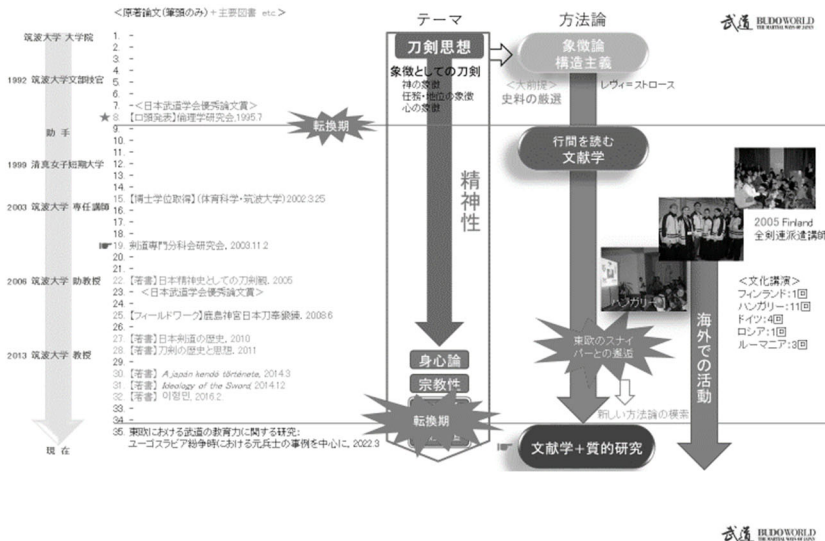
- ◆ **精神文化への憧れ:**
 精神を伴った文化性を自文化に欠けるものとして求めている。
- ◆ **教育としての武道の萌芽:**
 2007年に東欧のハンガリー共和国において青少年の道徳教育に武道を活用しようという国家プロジェクトが展開され、道徳にも関わった。その後、政局が変わりこの試みは頓挫したが、この事例には東欧において教育として武道が機能する可能性の萌芽が窺われる。
- ◆ **元クロアチア兵士との邂逅:**
 2008年にハンガリーで「Great swordsman and his unique mentality」と題する講演を行った際、ユーゴスラビア紛争時にスナイパーであったというクロアチア人の剣道家と会う機会があった。彼は日本の剣豪の心法について興味を示し、それが彼の戦場経験と一致するということを通じて、非常にショッキングな出来事であり大いに困惑したが、その後、彼が戦争によって受けた精神的障害を武道によって癒そうとしていることを聞き、東欧における武道の教育力の可能性を感じた。

可能性の萌芽



< 新たな問題意識・テーマ >

日本武道の教育力が海外で通用するか? ⇨ 新しい方法論の探索

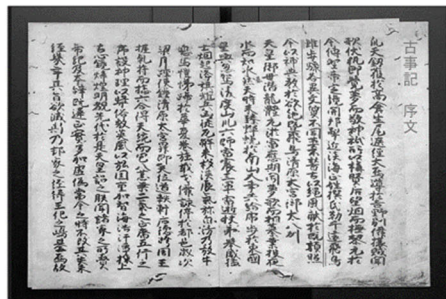


座右の銘

稽古照今

いにしえ かんがえ
古を稽え今に照らす

これまでは歴史研究してきた
これをベースに
これからは現代のことに言及していくべきか



部先生に、「彼、どうしている？」と聞いてました。そうすると、「彼はちょっと、言葉を扨ばずに言うと、戦争の時に人を殺しすぎている。それで心が壊れてしまっていて、その心をどういうふうに回復していくかということで、剣道の稽古を続けているんだと思う」ということを阿部先生に言われて、自分の中ではかなりほっとした部分がありました。

これはものすごく大きかったですね、私の中では。ここで新たな問題意識が私の中に出てきた。それが、「日本武道の教育力が海外で通用するか」ということです。できそうな雰囲気が出ている。阻害要因はいっぱいあったんですけど。でもこれは本

当に通用するかということを検証しようとする、今までの行間を読む文献学ではそれはできません、方法論としては。文献が無いので。だから、新しい方法論が必要ということになります。ここが大きな転換期ということになるわけですね。

これ、好きな言葉なんです、「稽古照今」という言葉があ

ります。稽古という言葉はよく使うと思いますけど。これは『古事記』の序文に出てきますが、「稽古照今」というフレーズが出てきます。「古を稽(かんが)え、今に照らす」と。今まで私がやってきた研究って歴史・思想史の研究ですね。ですから過去のことで、です。で、古をずっと稽えてきたんですね。でも今、これをベースに、これからは現在のことに言及していかなくちゃいけないのかなというふうに考えています。ですので、研究方法論をもう少し変えていく必要があるというふうに今感じているということです。

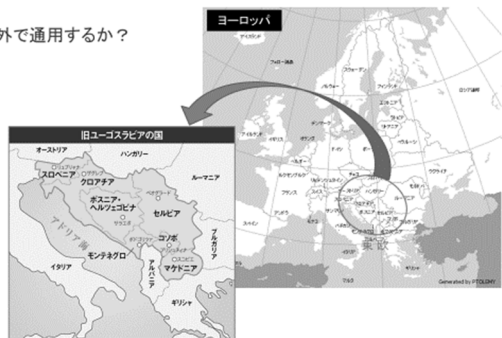
それで、去年、武道学会で発表させていただいた内容なんですけど、今日は最新の研究の成果ということでご紹介しますが、「東欧における武道の教育力に関する研究：ユーゴスラビア紛争時における元兵士の事例を中心に」ということで、問題の設定としましては、「日本武道の教育力が海外で通用するか」ということですね。研究対象者のAは51歳、クロアチア在住で、ユ

東欧における武道の教育力に関する研究：ユーゴスラビア紛争時における元兵士の事例を中心に。(武道学研究, 54(2), 125-139, 2022.3)

【問題の設定】日本武道の教育力が海外で通用するか？

【研究対象】

- 研究対象者：A
- 1969年生れ 51歳(2020年9月現在)
- クロアチア、カルロヴァツ在住
- ユーゴスラビア紛争時におけるクロアチアの兵士
- クロアチア特殊警察部隊(Special police force)のスナイパーとして従軍
- 戦前戦後を通して、空手、剣道、居合道を実践



本研究は、JSPS 科研費 JP 20K20809の助成を受けたものである

【研究方法論】

文学学+質的研究

従来の文献学的手法に質的データ分析方法
を使用しつつ分析

武道 DOWNLOAD

● 武道教育の文献学的ロジック

武道教育の目的は人間形成(源1987)
「心身一如」に表徴されるような心と身体をホリスティックに捉える心身関係論(心身相関的二元論)が前提として存在(中林1987, 湯浅1988)

身体性の重視を特徴としつつ身体を通して心を変えるという「身体一心」のベクトルをもつ(湯浅1988, 前林2007)

教育目標である精神的影響として深化し高められる心には二つの精神性(霊道的・求道的精神性/倫理・道徳的精神性)がある(中林1988, 東川2011)

伝統的な教育形態である師弟同行の思想(中林1987)や克己性(前林2007)にも注意が必要

— 検証 —
日本武道の教育力が海外で通用するか?

対照

研究対象者Aの思想構造—質的研究

2020年8月に共同研究者である阿部および研究協力者Bを通して研究対象者Aにインタビューにより研究概要を説明の上で協力の快諾を得た。

以下のテキストを分析対象とした。

- ① 回顧録
研究対象者Aが2020年9月より2か月以上かけて回顧しつつ記述し、自発的に提出されたもの(英語)
 - ② ラジオ放送用対談記録
2006年10月23日にハンガリーのラジオ放送(Civil Rádió 文明ラジオ)における番組(Emléni harok - harok emléke! 人間の軌いー闘う人々)のために研究対象者Aが適合道の場にあると対談をした際の音声記録(英語, 132分)がAより提出されこれを逐語録としてトランスクリプション(テープ起こし)したもの
 - ③ インタビュー記録
研究対象者Aが個別にわたり武道経験のある東京在住の通訳担当研究協力者ならびにトランスクリプション担当の共同研究者と共にオンライン(Zoom)によるインタビューをした逐語録(日本語・英語)更に3回にわたるメールインタビューによる補足質問と回答の記録(英語)
- 上記の文字データを分析する手続
- ・ コーディング(小見出しを付ける作業)
 - ・ コード別に整理・分類
 - ・ Aの経歴を(青少年期・戦中戦争・戦後)に分けて思想構造を明らかにする(コードマトリックスの作成)

参考:佐藤裕樹「質的データ分析法」

本研究は、筑波大学体育系研究倫理審査委員会において承認済。
(承認番号:第1020-154号)

● 武道教育の文献学的ロジック

武道教育の目的は人間形成(源1987)
「心身一如」に表徴されるような心と身体をホリスティックに捉える心身関係論(心身相関的二元論)が前提として存在(中林1987, 湯浅1988)

身体性の重視を特徴としつつ身体を通して心を変えるという「身体一心」のベクトルをもつ(湯浅1988, 前林2007)

教育目標である精神的影響として深化し高められる心には二つの精神性(霊道的・求道的精神性/倫理・道徳的精神性)がある(中林1988, 東川2011)

伝統的な教育形態である師弟同行の思想(中林1987)や克己性(前林2007)にも注意が必要

— 検証 —
日本武道の教育力が海外で通用するか?

対照



<文献>

源了圓文化と人間形成 第一法規出版1982
中林信二 武道のすすめ 中林信二先生遺作集刊行会1987
湯浅孝雄・修行・身体 平河出版社1988
前林清和 武道における身体と心 日本武道館2007
東川雅夫他 武道に心身統合科学の可能性を探る 武道学研究44(1)2011
中林信二 武道論考 中林信二先生遺作集刊行会1988

一ゴスラビア紛争時にクロアチアの兵士として、クロアチアの特殊警察部隊のスナイパーとして従軍していた。戦前戦後を通して、空手・剣道・居合道を実践していた、という人を対象に研究しました。研究方法論ですけど、どうするかということですが、「日本武道の教育力が海外で通用するか」ということですから、まずは日本における武道教育についての文献学的なロジックを押さえた上で、このAの思想構造というものを、一般的には質的研究と言われていますが、そういった研究方法論を援用しながら明らかにし、これを照らし合わせてみて、この日本の武道の教育力が海外で通用するかを検証するというようなこ

とをやったのがこの研究ということになります。

まず日本側のロジックですが、これは私がまとめました。色々な人を調べましてですね、日本武道の目的は人間形成で、心身一如に表徴されるような心身関係論が前提としてある。そして身体性の重視を特徴としつつ、身体を通して心を変えるという、身体から心へのベクトルがある。武道教育の目標である精神的影響として2つの心があるのですが、これは中林先生の言葉を使えば、1つは「芸道的・求道的的精神性」、そして2つ目は「倫理・道徳的精神性」というふうにいいます。そして1つ目、ここが重要なんです。1つ目の芸道的・求道的的精神性と

というのは、これは何かっていうと、日本刀を持って相手と戦う、対峙したときに、次の瞬間に自分が死ぬかもしれないというようなそういった状況の中で心が揺れますよ。心が揺れると身体に影響を与える、身体に影響を与えると命に関わることによって、この心をどういうふう

に解決するかっていうのが、武道における一番の喫緊の課題でした。これが禅の思想の影響を多分に受けていた。それからもう1つの心というのは、倫理・道徳的精神性ということですけども、これは何かっていうと、特に江戸時代、武道の担い手であった武士は為政者ですね。つまり、人の上に立つべきリーダーですが、それなりに人として立派でないと、人はついてきませんから。ですから、いかに人として立派か、倫理・道徳的精神性というのが必要になってくる。これは儒教の影響を多分に受けている。この2つの心を同時に解決していくというのが、武道のアプローチの仕方ですよ。でもこの2つの心というのは基本的には全く別物です。ですから、顔色一つ変えることなく相手を斬り殺せるような人間が、人として立派かという、これは全然別ですよ。全く別の精神性・心を同時に解決していくのが武道だ、というのが日本の文献学的ロジックになります。

次です。質的研究ですね。研究対象者Aの思想構造ですけど

も、生身の人間を相手にするものですから、色々手続きが必要なんです。研究倫理の審査も必要ですし、その手順というのはものすごく色々なことが必要なんですね。それをした上で、以下のテキストを分析対象としました。1つが回顧録ですね。研究対象者Aが2ヶ月以上もかけて回顧しつつ記述し、自発的に提出してくれたものですね。これは英語です。それから、もう1つが、2006年ですね、ハンガリーのラジオ放送番組用に研究対象者が居合の師匠と対談をした、英語で132分ある音声記録をくれました。これをテープ起こして、テキスト化しました。それから、インタビュー記録です。私自身が2回にわたり、Zoomによるインタビューをした逐語録と、それからさらに3回にわたるメールインタビューをした記録ですね。これも文字データです。以上の文字データを分析したのですが、質的研究のやり方に倣ってコーディング、つまり小見出しをつける作業、それからコード別に整理分類する作業、それからAの経歴を、青少年期、戦争体験、戦後に分けて、思想構造を明らかにしていきました。コードマトリックス、つまりこういった表にして思想構造を明らかにしていくというような作業をしたんですね。ここで、あることに気がついたんです。これ、質的研究って言っているけど、私が今までやってきた文献学的研究と

研究対象者Aの思想構造—質的研究

2020年8月に共同研究者である阿部および研究協力者Bを通して研究対象者Aにコンタクトをとり、研究概要を説明の上で協力の快諾を得た。

以下のテキストを分析対象とした。

① 回顧録
研究対象者Aが2020年9月より2か月以上かけて回顧しつつ記述し、自発的に提出されたもの(英語)

② ラジオ放送用対談記録
2006年10月23日にハンガリーのラジオ放送(Civil Radio 文明ラジオ)における番組(Emberi harok - harcos emberek! 人間の戦い—闘う人々)のために研究対象者Aが居合道の師匠と対談をした際の音声記録(英語、132分)がAより提出され、これを逐語録としてトランスクリプション(テープ起こし)したもの

③ インタビュー記録
研究代表者が2回にわたり武道経験のある東欧在住の通訳担当研究協力者ならびにトランスクリプション担当の共同研究者と共にオンライン(Zoom)によるインタビューをした逐語録(日本語・英語)更に3回にわたるメールインタビューによる補足質問と回答の記録(英語)

上記の文字データを分析する手続き

- ・ コーディング(小見出しをつける作業)
- ・ コード別に整理・分類
- ・ Aの経歴を3期(青少年期・戦争体験・戦後)に分けて思想構造を明らかにする(コード・マトリックスの作成)

参考: 後藤郁雄「質的データ分析法」他

コード・マトリックス

武蔵 BUNDO WORLD

【研究方法論】

文学学+質的研究

従来の文献学的手法に、質的データ分析方法を用いしつつ分析

武蔵 BUNDO WORLD

● 武道教育の文献学的ロジック

武道教育の目的は人間形成(中1987)

「心身一統」に象徴されるような心と身体が互いに促し合う心身関係(心身相関)が前提として存在(中1987, 湯浅1988)

身体性の重視を特徴としつつ、身体を通して心を変えようとする「心身一元」のペダルをもつ(中1988, 新井2007)

教育目標である精神的影響として深遠なものである心(心は二つの精神性(意識的・実証的精神性/倫理・道徳的精神性)がある(中1988, 栗川1991))

伝統的な教育形態である師弟同行の思想(中1987)や究心性(新井2007)にも注意が必要

<文献>

源了圓文化と人間形成—法親院1992
中林信二 武道のすすめ 中林信二先生遺作集刊行会1997
湯浅幸雄 氣・修行・身体 平河出版社1988
新井清和 武道における心身関係 日本武道院2007
栗川信之 武道の心身相関科学の可能性を拓く 武道学 研究 4(1) 129-1
中林信二 武道論考 中林信二先生遺作集刊行会1988

研究対象者Aの思想構造—質的研究

2020年8月に共同研究者である阿部および研究協力者Bを通して研究対象者Aにコンタクトをとり、研究概要を説明の上で協力の快諾を得た。

以下のテキストを分析対象とした。

① 回顧録
研究対象者Aが2020年9月より2か月以上かけて回顧しつつ記述し、自発的に提出されたもの(英語)

② ラジオ放送用対談記録
2006年10月23日にハンガリーのラジオ放送(Civil Radio 文明ラジオ)における番組(Emberi harok - harcos emberek! 人間の戦い—闘う人々)のために研究対象者Aが居合道の師匠と対談をした際の音声記録(英語)がAより提出され、これを逐語録としてトランスクリプション(テープ起こし)したもの

③ インタビュー記録
研究代表者が2回にわたり武道経験のある東欧在住の通訳担当研究協力者ならびにトランスクリプション担当の共同研究者と共にオンライン(Zoom)によるインタビューをした逐語録(日本語・英語)更に3回にわたるメールインタビューによる補足質問と回答の記録(英語)

上記の文字データを分析する手続き

- ・ コーディング(小見出しをつける作業)
- ・ コード別に整理・分類
- ・ Aの経歴を3期(青少年期・戦争体験・戦後)に分けて思想構造を明らかにする(コード・マトリックスの作成)

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

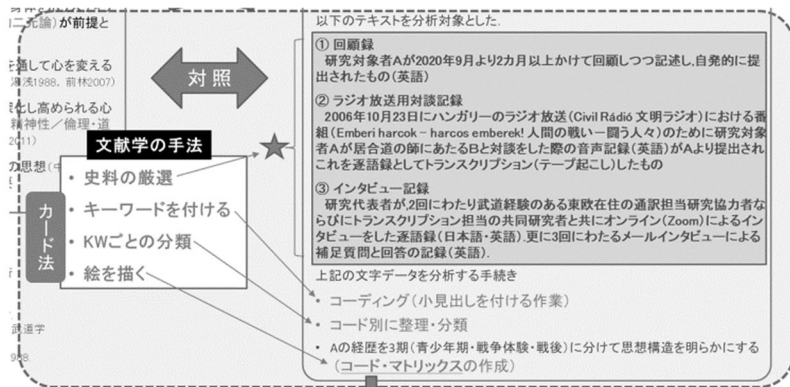
研究対象者Aの思想構造—質的研究

研究対象者Aの思想構造—質的研究

あんまり変わんないんじゃないのっていうことに気が付いてきましたね。ここの部分ですけど、文献学の場合は、資料が大事ですよ。こっちは資料ないんですよ。でもキーワードをつけるというのは、コーディング作業ですよ。それから、キーワードの分類っていうのはコード別の整理、絵を描くというのは

コードマトリックス、これも一緒です。ただ、何が違うのかっていうと、この部分ですよ、今のことから資料がないんですよ。ですので、この資料にあたるテキストを自分で作らなきゃいけない。ここが一番大切です。これがものすごく大変でした。こういった作業をして、テキストを作っていくと、今まで

方法論としては非常に似ている



やってきた文献学と質的研究は非常に似ているんですね。だからね、この部分でやっぱり僕カードを作りましたもんね。コードマトリックスを作る前に。

こういった方法論でアプローチした結果、ちょっと具体的な話になりますが、青少年期ですね。「I lived in a damaged family」と語るように、劣悪な家庭環境に生まれ、この逆境でも、母親から暴力を振るわれるんですが「絶対泣くな」ということを言われて泣くことも許されない。だから「逆境における心の平静」というのをここで身につけた」ということを言うわけですね。やってられないわけですよ、こんな家庭環境。だから空手を始めるんですよ。彼は「生活の中での駆け込み寺 (sanctuary) を見つけた」ということを言います。そして、高校を卒業して徴兵により陸軍士官学校に入校をします。

戦争体験ですが、1991年に旧ユーゴスラビアが分裂して紛争が勃発するんですね。Aは22歳間際にして自発的にクロアチアの特設警察部隊 (special police

forces) に入隊します。ユーゴスラビアは1つの国でしたから、分裂して間もない頃というのは、クロアチアに軍隊がないわけですよ。軍隊がないのでどうしたのかっていうと、武道経験・格闘技の経験があったりとか、軍事スキルがある人たちを集めて、特殊警察部隊を結成し、戦うんですね。それはもう

空手をやっていますし、それから徴兵にも行っていますから、ここに入隊をするわけです。ここでスナイパーとしての素質を見出され、訓練を受けて優秀なスナイパーとして戦場の部隊に送られるということです。初めての狙撃ですが、カルロバツ郊外で戦闘の際に3人のセルビア兵士を攻撃し倒したときの惨状を述べていますし、生死の境もずいぶん経験をしていますね。負傷した同朋を助けるために担架に乗せ、片手にライフルを持ちながら助けたなんていうことも言っていますし、地雷原に入ったとも言っています。

これが戦後どうなっていくかっていうと、精神障害ですね。戦後ですね。戦争がほぼ終結す

この方法論でアプローチした

【結果】

◆ 青少年期

・「I lived in a damaged family」と語るように劣悪な家庭環境に育つ逆境における心の平静 ①

Aが5歳の時、両親が離婚し、そのフラストレーションが原因で母親から暴力を振るわれるようになる。暴力を受けた際、母からは絶対泣くことを許されず、感情を抑制することを強され、この時に心の平静を身につけたという。

・1983年、14歳で空手を始める - 武道経験 ②

生活の中の「駆け込み寺」(sanctuary)を見つけた。武道(空手)による精神の癒し ③

1983年14歳の時、カルロヴァツの町にあった上地流空手の道場で空手の稽古を始めた。生活の中の「駆け込み寺」(sanctuary)を見つけたと述べている。

・1988年、高校卒業後にユーゴスラビア人民軍の陸軍士官学校に入校 徴兵 ④

1988年に高校を卒業し、徴兵制度のためユーゴスラビア人民軍 (Yugoslav People's Army) の陸軍士官学校に入校し、1年間の訓練を受けて中尉の階級を取得した。

武道 BUDO WORLD



クロアチア



The Museum of Army (Karlovac)

◆ 戦争体験

・1991年9月17日、クロアチアの特設警察部隊 (Special police forces) に入隊。スナイパーとしての訓練を受け、ユーゴスラビア紛争に参戦 ②

④ クロアチア特設警察部隊 (special police forces) に入隊

③ スナイパーの素質
1991年に旧ユーゴスラビアが分裂し紛争が勃発するとAは22歳を間近にして自発的にクロアチア特設警察部隊 (special police forces) に入隊する。当時独立しようとして間もないクロアチアには正式な軍隊はなく格闘技経験者らを集めて特設警察部隊が結成された。Aは既に徴兵により軍事スキルを持っており、更に91年の段階で約8年の武道経験があったため、この特設警察部隊に入隊したAはここでスナイパーとしての素質を見出され狙撃訓練を受けて優秀なスナイパーとして戦場の部隊に送られる。

・1991年10月4日、カルロヴァツ (Karlovac) 郊外での戦闘に従軍。初めての狙撃 罪悪感

初めての狙撃はカルロヴァツ郊外での戦闘の際であり3人のセルビア兵士を狙撃し倒した際の惨状を詳述している。1回目の狙撃は無意味・自発的になされ非対称的な命を奪うという自覚がなかったが2回目以降はその結果がどうにかわかっていくだけに罪悪感があり躊躇するもの戦いを続けなくてはならず、職務を遂行するために感情を押し殺す必要があった。このことにより他人へ共感 (empathy) する能力を失ったと述べている。

武道 BUDO WORLD

・1992年冬、ヴェレビト山脈での戦闘に従軍。生死の境を経験

ヴェレビト山脈での戦闘では、負傷した同朋を間に合せて作った担架に乗せ、4人の仲間が協力して左手で担架を持ち右手でライフルを撃ちながら丘を越えて救助している。

・1992年春、ゴスピッチ丘陵地帯での戦闘に従軍。戦場で九死に一生を得る

ゴスピッチ丘陵地帯での戦闘では2回にわたり地雷原に入り込んでしまったが何かがおかしいと感じるうちに助かっている。



ヴェレビト山脈

ると、睡眠障害になります。悪夢に襲われるようになります。同じ夢を何回も見続けるわけです。そして、祖国のために人の命を奪っているんだと教えられていたのですが、罪悪感で、苦悩に誘発されて、1993年末に拳銃による自殺未遂を試みますが、これは未遂に終わりますね。これだけの、自殺に追い込まれるほどの重い精神的な障害を受けたのですが、これを武道実践により克服をしています。彼はこれを「武道による精神の癒し (Budo for healing my soul)」という言葉で表しています。彼の武道経験というのはこういうことですね。それから、2002年に居合を始めるんですが、この居合ってというのは、自分のセラピー、精神療法であり、私を助けてくれたということも言います。彼の回顧録の中で度々言うのですが、武道をスポーツと明確に分けるんですよ。武道はスポーツじゃない。武道の特異性みたいなものを明確に言うんですが、それを彼は「depth」つまり深みという言葉を使います。その深みって何だろうというふうに質問したときに、彼は「killing」だと2006年の段階では言うわけです。つまり、実践性・殺傷性ですね。こういうことを言うわけですよ。だから困ったなと思ったんです。武道の深みが「killing」だとちょっと困るんですよ。それが2020年の段階になると、「稽古後、少し成長した人間 (a

◆ 戦後
・精神障害

睡眠障害

1993年末戦争がほぼ終息すると睡眠障害に襲われるようになる。今後、残りの人生も人を殺し、陣地を守り、山の中を走り回ることと考えると眠ることができなかった。戦争での爆発、負傷者、自分が狙撃した敵のイメージが頭の中に浮かび不眠に陥り、度々泣いていたことを回想している。

悪夢

現実とは何のかわかりない悪夢を見続けた。いつも同じ夢であったという夢の中で焼け焦げた木が同じ方向に倒れている。そういう森の中を、吠えながら追ってくる犬に追われて逃げまどい、油に浸されたようなツルツルで登ることの到達できない高い壁の間に追い詰められ、そこで目が覚めるといふのであった。こういった悪夢を3ヶ月にわたり見続けたという。

自殺未遂

祖国のために戦い、祖国のために人の命を奪っているのだと教えられていたが、いずれにしても人を殺すことは良くないことであり、その罪悪感からクロアチアでは戦後多くの人が自殺した。又、社会性の欠如を自覚しており、一般社会からの疎外感に悩んでいた。上記の苦悩に誘発され、Aも他の仲間と同様に、1993年末、拳銃による自殺を試みようとするが、思いどまる。

・武道による精神の癒し

武道実践

③ 武道による精神の癒し (Budo for healing my soul)

Aは既に見てきたように戦争により自殺未遂に追い込まれるほどの重い精神的な障害を受け、これを武道実践により克服している。Aはこれを「武道による精神の癒し」(Budo for healing my soul)という言葉で表現している。

Aの武道経験の経歴を整理すると以下のようになる。
・空手: 1993年～1999年 戦後、1994年から空手を再開
・剣道: 2000年～2007年
・居合道: 2002年～現在

居合道の開始 - 精神療法 (therapy)

2000年にAの町で剣道の活動が始まり、Aも真剣に剣道の稽古に取り組んだ。
2002年にハンガリー剣道連盟の使節団がザグレブにやってきた際、Bが居合道のデモンストレーションを行った。Bの演武はクロアチア剣道連盟のメンバーに深い感動を与えた。Aもこれを機に居合道の稽古を始める。
居合道は「自らの戦術による闘争の精神療法 (therapy)」であり私を助けてくれたと述べている。
ここから、武道による精神の癒しを実感していることが確認できる。

・武道による精神の癒し(つづき)

スポーツとの区別

例えばランニングが1～2時間すれば最初は様々な問題解決にはなったが、3年たつて十分に走れるようになってからは特別なものではなくなり、もはや何の変化ももたらさなくなると述べている。

つまりスポーツによる精神的な自己解決の限界を自覚しているということである。

その後Aは武道実践に取り組む。しかしAは競技化・スポーツ化された武道を批判的に捉えるようになる。

Aは近代空手を、単なるスポーツあるいはサーカスに近いものであるとして酷評し、失望したと述べている。

A、剣道についても、クロアチアの剣道は専らスポーツとして行われており、レクリエーションのレベルであるとして、数年で稽古を辞めてしまっている。
その後、居合道に取り組むが、現在では競技や段審査のためだけの稽古に終始しているクロアチアの居合道の現状を嘆いており、連盟からは放逐されているという。

Aは明らかに武道をスポーツと区別し、スポーツにはないものを求めていることがわかる。

「depth」「深み」- 武道の特異性

Aが求めるスポーツにはない武道の特異性とは何か、本人は回顧録の中で「depth」「深み」という言葉を使っている。

実践性・殺傷性 (killing) - 2006年

クロアチアの剣道についても、何か欠けていると感じており、何が欠けているのかという問いに対して、殺傷性 (killing) と答えている。多分スポーツにはない実践性 (殺傷性) を武道に見ているということが明らかである。重要なことは、これらの言説はいずれも2006年の段階のラジオ放送用対談における発言であることに注意しておきたい。

人間形成 - 2020年

更にAが武道にどういった「深み」を感じているのかを2020年以降の記録から窺ってみよう。
武道は楽しみではなく「生き方」(way of life)の問題であることを理解している。続けて、武道の戦いは人間性を高めることであると述べている。ここからは、人間形成への意識が明確に見て取れる。
又、Aは「礼」についてあらゆるものをコントロールできる稽古の一つであると述べている。
更に関係して道場についても思いを述べている。道場に入る時と出る時に礼をする稽古後、少し成長した人間 (a little better person) が道場から出てくることになると述べている。

・武道による精神の癒し(つづき)

修練の方法

徹底した反復練習に没頭する鍛錬主義 - 心へのアプローチ

AはBとの邂逅の後、彼を師事し、月に1～2回程度クロアチアのカルロヴツツからBの住むハンガリーのブダペストまで片道約450キロの道程をバスと電車を乗り継ぎながらおよそ10時間かけて稽古に通っている。

又、Bも同様に修行中であり2回に1回にBに随行して来日し、Bの師にあたる古流居合の師範であるCの稽古にも参加している。本場の道場におけるエネルギー・雰囲気を感じたことをAが回想している。

いずれにせよC師範はもとより直接の師であるBからも常時指導を受けられる環境ではなく、必然的に独り稽古が主となる。

Aの武道修練の方法として特筆すべきは、徹底した反復練習に没頭するその鍛錬主義である。

Aは、長い時間をかけて技を何回も繰り返し稽古したことを随所で語っている。正月を道場で迎える年越し稽古を何回か実施しており、その際、全日本剣道連盟居合の一本目「前1」を1000本抜いたという。

Aは私の精神は戦争のイメージに苦しみ、これから逃れるために闘っていたが、こういった永続的な不屈の稽古は心の中に答えが現れるといふ。彼が実践した鍛錬は、武道の稽古による心へのアプローチの仕方であった。

精神的影響①

法道的・求道的精神性 - 心身一如

Aは大切なことは決して到達することのない境地を追求することであると、言いかたは実践性からは離れて修行の過程そのものに意味を見出している。

又、3時間にもわたる「切り下し」の稽古をした時、心身が整ったことを自覚したと述べている。これはいわゆる「心身一如」の感覚である。これもまた技の殺傷性は念頭になく、鍛錬による心身関係の変化に興味に向いている。Aは、稽古の目的は他人を倒すことではなく、反復練習により、自らの内にある稽古の中止を促し、集中を妨げる邪念 (Aはこれを「ego」と表現している) を滅ぼすことだといふ。至って求道的な方法により獲得した精神的影響について言及している。

更にAは、このいった鍛錬主義的な稽古は実生活に適用できるものだと述べている。ことが確認できる。武道実践による精神的影響を日常生活化できるものとして捉えている。

精神的影響②

倫理・道徳的な精神性

Aは、武道は自らを高めるシステムであると述べている。そして最も重要なことは良い人間 (good person, better person) になることだといふ。こういった倫理・道徳的な精神性に關する発言は2006年のラジオ放送用対談では見られない。
Aはこの間の自らの変化・進化を自覚している。

little better person) が道場から出てくる」なんていうふうに、ちょっと何か人間形成っぽいことも言い始める。それで、彼の修練の方法ですね。その特徴は徹底した反復練習です。これに没頭する、鍛錬主義ですね。ですからもう長い時間をかけて、何回も繰り返し稽古したことも随所に語っています。居合はやら

ないからわからないんですけど、年越し稽古で、居合の1本目「前」っていうのがあるのかな、これを1000本抜いたと言っています。すごいことをするんですよ。これはもう完全に心にアプローチをしているんですよ。この心へのアプローチが何か、どういう影響があったかという、1つ目が、3時間にわ

【考察】

ここまでユーゴスラビア紛争時の元兵士であるAについて、スナイパーとして闘った戦時中の狙撃による殺人や生死の境を経験したことに加え、戦後の一般社会からの疎外感等から、睡眠障害や憂鬱ひいては自殺未遂にいたる精神障害を引き起こし、これを武道により克服した過程を明らかにしてきた。

本論の主題は、戦後の精神障害の克服つまり武道による精神の癒しにあるが、これを武道学のロジックに照らして考察を深めていきたい。

● 武道教育の文献学的ロジック

武道教育の目的は人間形成(前1987)
「心身一如」に表徴されるような心と身体をホリスティックに捉える心身関係論(心身相関的二元論)が前提として存在(中村1987, 湯浅1989)
身体性の重視を特徴としつつ、身体を通して心を変えるという「身体一心」のベクトルをもつ(湯浅1988, 前林2007)
教育目標である精神的影響として深化し、高められる心には二つの精神性(芸道的・求道的精神性/倫理・道徳的精神性)がある(中村1988, 湯浅2011)
伝統的な教育形態である師弟同行の思想(中村1987)や克己性(前林2007)にも注意が必要

Aが武道に精神の癒しを求めたのには、武道を明確に「スポーツ」と区別し、そこに何らかの「深み」を感じていたからである。その「深み」の正体は、実戦性(危険性)から礼や道徳という場が大いに関係しつつ実現する人間形成へと時間の経過に伴いその認識が変化してきた。
Aの武道実践つまり修練方法の特徴は、何といっても鍛錬主目的な反復練習であり、この方法によって心にアプローチする。ここには明らかに武道学でいうところの身体性重視の思想が見て取れ、更に身体を通して心を変える「身体一心」のベクトルが確認できる。これは武道教育の根幹をなすロジックである。ここには「心身一如」に表徴されるような心と身体をホリスティックに捉える心身関係論(心身相関的二元論)が前提として存在する。
更にAは師であるBに対する感謝の気持ちも随所で語っているが、Bもまた同じ修行者でありAを伴って日本在住のC師範のもとに通っており、ここには「師弟同行」の姿勢が見て取れる。
又、種古環境や地理的条件もあって、長時間「切り下ろし」を黙々と行うような狭い稽古が主であり、師の導きを受けることはできる。必然的に自らの気づきによる「克己性」が強かったといえる。
次に精神的影響について考察すると、大きく二つに大別できる。一つは、Aが稽古の目的は反復練習により自らの邪念を滅ぼすことだと述べているような、武道の場における個人の修行過程やそれにより得られた境地に関する精神のことで、武道学のロジックでいう「芸道的・求道的精神性」にあたる。二つ目は、Aが最終的には倫理性や道徳性を高めていくことが武道の意味だと述べているような、直接技術と伴わずに他人との人間関係つまり社会性を有する精神で、武道学のロジックでいう「倫理・道徳的精神性」にあたる。

たる「切り下ろし」の稽古をしたときに心身が整ったことを自覚したと述べています。これは「心身一如」の感覚です。これはもはや技の殺傷性は念頭になく、鍛錬による心身関係の変化に興味に向いている。これは中林先生の言葉で言えば「芸道的・求道的的精神性」ということになります。もう1つですよ。倫理・道徳的精神性みたいなことを言うんです。「武道は、自らを高めるシステムである」と述べています。そして、「最も重要なことは良い人間 (good person、 better person) になることだ」ということも言います。こういった倫理・道徳的精神性に関する発言は、2006年のラジオ放送対談では見られません。次に、考察です。ここまでユーゴスラビア紛争時の元兵士であるAについて、スナイパーとして戦った戦時中の狙撃による殺人や生死の境を経験したことに加え、戦後の一般社会からの疎外感などから、睡眠障害ひいては自殺未遂に至る精神障害を引き起こし、これを武道により克服した過程を明らかにしてき

ました。本論の主題は、戦後の精神障害、つまり武道による精神の癒しにあります。これを武道学のロジックに照らして考察を深めていきました。見比べていただきますと、見事に「人間形成」、それから「心身一如」、「心身関係論」、「身体性の重視」、それから「身体から心へのベクトル」ですね、それから「2つの精神性」、「師弟同行」や「克己性」などというものが、見事にこちらの方にも現れているということがわかんと思います。ということは、正常な状態ではなく戦争体験による精神障害という、至ってマイナスの状況下で、精神的影響つまり癒しを強く必要とした本事例において

も、日本において先学が提示した学説に近い形で、武道実践により人間形成、人間性を回復していたということが確認されました。

つまり結論としましては、武道学における武道教育のロジックは海外においても有効に機能している。つまり、日本武道の教育力は海外で通用するということが明らかになったというのが本論の結論であります。

また、更に面白いことが色々追加でわかってきました。まず、先ほど阻害要因として挙げましたキリスト教文化圏においてさえ、武道における人間形成が可能であることが明らかになりました。それと、心身二元論の世界においても、この武道思想が機能していることが明らかになり、つまり阻害要因となっていた従来からの課題というのがここである程度克服されているということですね。

それから精神的影響としての芸道的・求道的的精神性と倫理・道徳的精神性ですが、我々の場合、現在の日本社会では、規定のものとして2つ同時に存在す

以上、正常な状態ではなく戦争体験による精神障害という至ってマイナスの状況下で、精神的影響つまり癒しを強く必要とした本事例においても、日本において先学が提示した学説に近い形で、武道実践により人間性を回復していたことが確認された。

結論

本論の問題設定に対する答えとしては、東欧における本事例において、武道学における武道教育のロジックは海外においても有効に機能している。つまり「日本武道の教育力は海外で通用する」ことが明らかとなった。

更に

＜更に今回の研究により明らかにされた事項＞



◆キリスト教会における武道による人間形成

海外において人間形成を担ってきたキリスト教の文化圏においてさえ、武道による人間形成が可能であることが明らかとなったAもキリスト教信者であるが、このような非常に困難な状況下においてさえ、ここに癒しを求めることはせず、最終的に武道により問題を解決している。



◆心身二元論社会における心身関係論

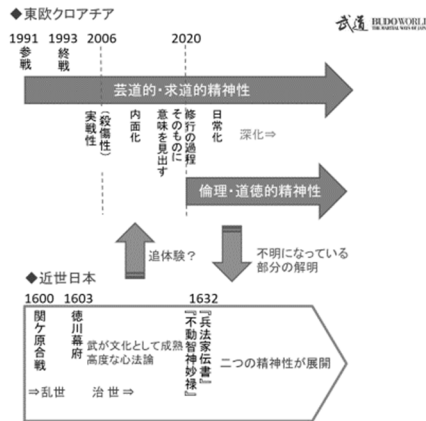
Aの鍛錬主義的な稽古による心へのアプローチは、明らかにその前提として「心身一如」に表徴される「心身相関的二元論」の思考形態があり、デカルト以来の心身二元論の世界においても、この武道思想が機能していたことが明らかとなった。



＜更に今回の研究により明らかにされた事項＞
(つづき)

◆精神的影響としての「芸道的・求道的精神性」と「倫理・道徳的精神性」

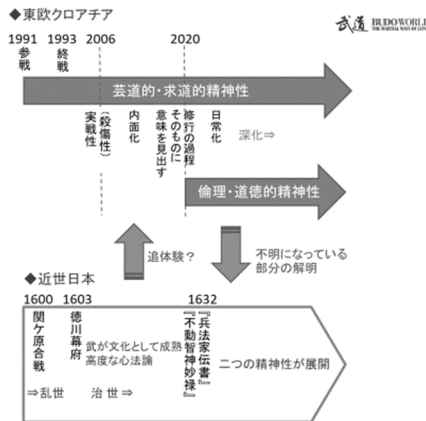
■ 我われの場合、つまり現代の日本社会においてはこれが既定のものとして同時に存在する。しかしAの場合、2006年の段階で「倫理・道徳的精神性」の意識はなく、修行が進んだ段階(2020年以降)でこれが顕現化していた。



＜更に今回の研究により明らかにされた事項＞
(つづき)

◆精神的影響としての「芸道的・求道的精神性」と「倫理・道徳的精神性」

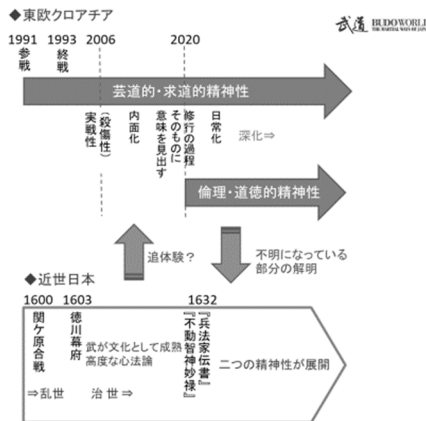
■ 又「芸道的・求道的精神性」について具体的内容を再度見直す、2006年の段階では至って実践性(殺傷性)に係わるものとしての認識であったが、武道修練が進んだ段階ではこれが内面化され、修行の過程そのものに意味を見出すようになり、心身関係を自覚し、心へのアプローチ効果を認識している。更にはこの精神的効果を日常化させている。ここには時間の経過に伴い、敵と命のやり取りをする場面での心から、次第に生死の問題を離れた芸道的・求道的な心への移行がみられる。



＜更に今回の研究により明らかにされた事項＞
(つづき)

◆精神的影響としての「芸道的・求道的精神性」と「倫理・道徳的精神性」

■ 以上のように修行が進むにつれ「芸道的・求道的精神性」について「倫理・道徳的精神性」が顕現化する、あるいは「芸道的・求道的精神性」の内容が深まり進化する様子は、そもそも日本において戦国乱世から治世に移行する近世期に我われ日本人が経験してきたことであると考えられる。従来の武道学では、このことにあまり注目してきてはいない。Aの事例は、敵と命のやり取りをした場面と時間的に近い立ち位置で、この過程・順序を追体験しているとも解される。ここには武道が、そもそも殺傷性を目的とした戦いの術であったものが、人間形成を目的とする教育へと深化していく過程が凝縮されていると言える。



【近年の研究活動】終わり

るんです。当然のように同時に存在します。しかし、Aの場合には2006年の段階では、倫理・道徳性の意識は全くありません。これが2020年の修行の進んだ段階で、顕現化してくる。だから出現してくるのに順序があるということですね。これは日本にはわからない。それから、芸道的・求道的精神性で、これの内容について見直しますと、この2006年の段階で「killing」、つまり実践性・殺傷性に関わるものとしての認識であったものが内面化し、修行の過程そのものに意味を見出すようになり最終的には日常化させるとい。時間の経過に伴って、敵と命のやり取りをする場面での心から、次第に生死の問題を離れた芸道的・求道的な心への移行というのが見られるということですね。今見てきたように修行が進むにつれて、芸道的・求道的精神性に次いで、倫理・道徳的精神性が顕現するという順番がある。それから、芸道的・求道的精神性自体が深まり、進化する様子というのは、そもそも日本において戦国乱世から江戸時代へ移行する近世期に、我々日本人が経験してきたことであるとも考えられます。従来は武道学でここにあまり注目してきてはいませんが、Aの事例、敵と命のやり取りをした場面と時間的に近い立ち位置で、この過程順序を追体験しているとも理解されます。ここには、武道がそもそも殺傷性を目的とした戦

いの術であったものが、人間形成を目的とする教育へと進化していく過程というのが凝縮されているというように理解できるということです。ですから、今、日本にいてはわからないことが、今回彼の事例を見ることによって、順序があることや、その進化していく過程というのが明らかになった。なぜかという

と、それは戦いに近い時間で、我々が作ってきた昔の近世初期の過程というのを追体験しているからじゃないかというような話です。

近年の研究活動はここで終わりということですが、ここで重要なのは、日本の武道教育のロジックが海外でも通用する、機能するということが明らかになったということですね。

それで少しだけですが、今後の計画というのをお話させていただきたいというふうに思います。実は今の研究というのはこの科研費のプロジェクトでいうと、この部分ということになります。今回わかったことをベースにまたプロジェクトの申請を出しました。

今年、また採択されて、基盤研究Bが今年から5年間スタートしたということですが、前回の場合には、つまり今ご紹介した最新の論文の場合、マイナスからのスタートですよ。戦争によってマイナスになったところで機能していたということですが、今度はそれを平常な状態で、しかもヨーロ

【今後の計画】

日欧対話による国際的「生涯武道論」の構築と指導者養成プログラムの開発

目的：
日欧対話により国際的な「生涯武道論」を再構築し、それを前提とした生涯武道インストラクター養成プログラムを開発する

課題1 我われ現代の日本人は、平和な時代の、今現在の武道のみを、国内の視点のみで実践してきたために見えなくなっている部分が多い。歴史的変遷の中で、外からの視点が必要不可欠である。「生涯武道論」の再構築は必須といえる。

課題2 更に課題1で構築したロジックから武道の教育的価値を理解した上で、実際に海外において「生涯武道」を文武両道で実践するプログラムを作成する。武道文化に興味をもち、酒井らが既にネットワークを構築して本課題をスタートさせたことある東欧に焦点を当て、対象としては武道実践者の全てではなく、先ずは当地において将来「生涯武道」を推進・展開していく指導者の養成を念頭に本プロジェクトをデザインする。

当面は課題1に取組む

- 武道 BUDO WORLD
- <外部資金 科研費助成事業>
- ◆【基盤研究A】修験道思想にみられる刀剣観に関する研究 1999-1998
 - ◆【挑戦的萌芽研究】刀剣の思想に関する融合的アプローチ研究 2007-2009
 - ◆【基盤研究B】武道文化に関する教材の開発 2007-2009
 - ◆【基盤研究B】武道文化に関するインディカ英語教材の開発 2011-2013
 - ◆【挑戦的萌芽研究】韓国における武道文化拠点の形成—ユース武道アカデミーの構築— 2012-2014
 - ◆【挑戦的萌芽研究】韓国と映画でみた武道文化 2016-2018
 - ◆【基盤研究B】日欧対話による教育としての武道に関する国際研究 2016-2018
 - ◆【挑戦的研究(萌芽)】東欧における武道の教育による国際研究 2020-2023
 - ◆【基盤研究(B)】日欧対話による国際的「生涯武道論」の構築と指導者養成プログラムの開発 2022-2027

課題1 国際的な「生涯武道論」を再構築

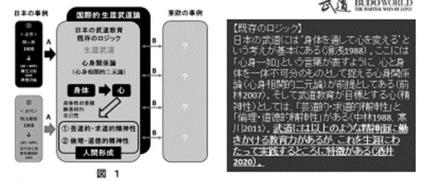
課題1における基本的な研究デザインは、既存のロジックを書き換えることである(図1参照)。先ずは日本の歴史に照らしてこのロジックを再検討し、更に東欧における事例を分析して、両者を照合させながら国際的に汎用性の高い生涯武道としてのロジックを書き換える。

具体的な研究方法としては、文字テキストを解釈する文献学的手法に質的データ分析方法を採用しつつ分析・考察を行う。

①[A]日本における既存のロジックの再検討
既存のロジックは、先学の知見をもとに申請者が整理したものであり学会で発表済みである。本研究においてベースとなるものであり、これを日本の歴史に照らして再検討する。日本における教育としての武道には、歴史上以下の2つの重要な変遷期がある。

- ① 1600年の関ヶ原合戦から、世情が安定し、柳生宗矩の『兵法家伝書』(1632)や柳生宗茂の『不動智神妙録』(不明、同時期)にみられるような高次元心法論が展開されるまでの凡そ30~40年。
- ② 1868年の明治維新から、明治30年(1897)前後の国民道徳としての武士道ブームを経て、明治38年(1905)に大日本武徳会に武道教育普及のための武術教員養成所が開設されるまでの凡そ30~40年。

既存のロジックは、主に①の近世に関する先学の知見を中心に構築されたものであり、更に②の近代についても再度検討が必要がある。

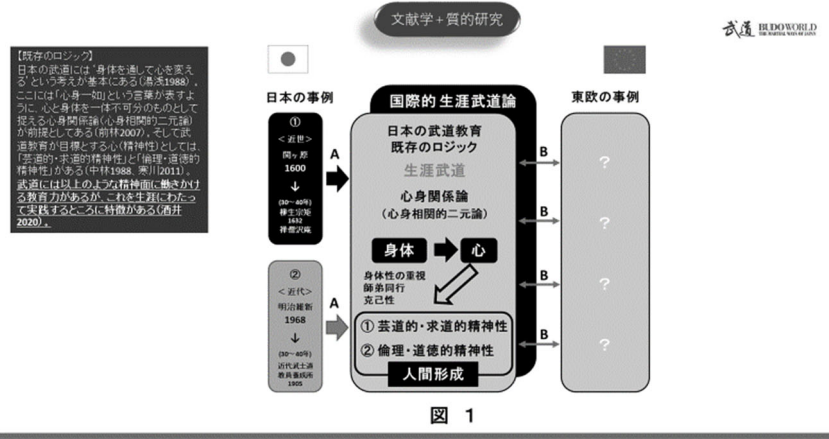


①[B]東欧における事例の分析 現在の東欧は、1889年の革命から30年余りが経過し、日本武道の変革期①・②を体験している時期と考えられ、武道の教育的価値とそのロジックを再構築するために重要である。本研究では、東欧諸国における中高年者の武道実践者を対象とし、オーストリアへの視察・分析を行う。

具体的な研究手順は以下の通りである。

1. 対象者に自らの武道観について、留稿録の記述を依頼する。
2. 留稿録の内容で不明な部分について、対面あるいはZoomによるオンラインによるインタビューを行い、その音声記録をトランスクリプション(テープ起こし)し文字データとして逐語録を作成する。
3. 上記文字データを圧縮する手続としてコーディングを行い、これをコード・マトリクスに整理・分類し、時期的な変化も考慮しながら分析する。

文献学+質的研究 AとBの結果を照合させて国際的「生涯武道論」を完成させる。



ップの場合には、生涯武道の観念というのは非常に薄いですから、これを対象とした研究プロジェクトというのを展開していくということ、今年から国際的な生涯武道論を再構築する、これが課題I。それを前提として、生涯武道インストラクター養成プログラムというのを開発するというのが課題2とな

ります。当面はこの課題Iに取り組んでいこうというふうに考えています。

課題Iですが、やり方としては一緒ですよ、さっきの研究と。ただし、最初はですね文献学的研究と質的研究を合わせるというように考えていましたが、今、私の意識としては、従来の高橋先生に教えていただい

課題Ⅱ 生涯武道インストラクター養成プログラムの開発

課題Ⅱにおける基本的なデザインとしては、プログラム内容を作成し、教材を開発し、セミナーを実施し、参加者による評価を行い、改善するという図2のサイクルにより生涯武道インストラクター養成プログラムを開発する。



パワースポット 韮原神社

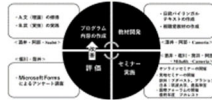


図 2



WKC インチョン(韓国)

< 研究環境 >

> 資・史料的環境: 筑波大学武道学研究室は、創設以来50年余りの間に、全国各地に所在している武道関係の古文書を写真撮影により収集してきており、これの底帳を写真史料を103冊所蔵している。また、筑波大学は、名誉教授後藤一郎氏(体育系: 武道学)が収集した武道関係の旧蔵書388冊から成るコレクション「後藤一郎文庫」を所蔵している。更に、大日本武道学会が収集した「狩野家文庫」(古文書の写し、688点)の写真データも所有している。以上、武道に関する資・史料の充実という点で他に類を見ない蔵書の量と量であり、課題Ⅱにおいて日本の武道教育を対象とした文献学的アプローチをするに当たり、最高の研究環境が整えられている。

> 日欧共同研究の環境: 筑波大学体育系は、Eötvös Loránd University (ELTE) ならびに University of Physical Education (UPE) と部局間交流協定を締結している。また研究代表者である湯井は Forum for Budo Culture (FBC) の理事を務めており、更に The Romanian Kendo, Iaido and Judo Association (RKA) の代表剣道コーチを務めている。東欧圏コンソーシアムとの確固とした関係がある。本研究の環境は十分に整っている。



てきた行間を読む文献学というものに、質的研究の方法論を援用するというイメージです。特にテキストを作る段階においてそれを援用するというようなイメージで、新しい方法論というのを作っていけないかというふうに考えております。それで、従来の日本武道の既存のロジックっていうのは、近世期のものを元に作り上げられているということが多くはありますが、それプラス、この明治維新、1868年、これはもう武道史の中では大転換期ですよ。武士がいなくなるんですから。武道はもういらなくなりますよ。黒船が来て大砲をぶっぱなすんですから。そういった時、大混乱期から3、40年っていうのは今、堀川くんがやっていますけども、近代武士道論、武士道ブームみたいなものが出てきていると。それから筒井くんがやっている、大日本武徳会で武術教員養成所が設立されるなんていうのはここから3、40年です。こここのところを徹底的にもう1回、どういう過程を経たのかというのをやり直して、ここと照らし合わせ

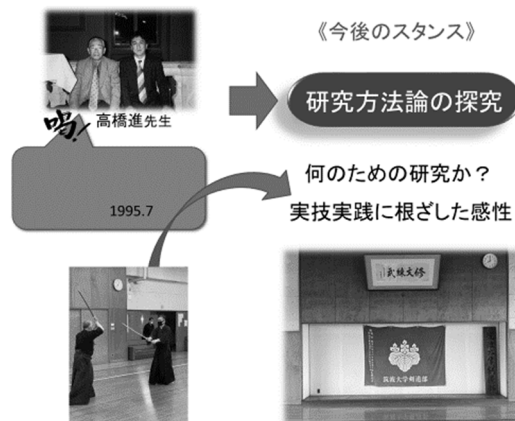
ながらもう1回作り直す。そしてこっちの東欧の事例というのを、オーラルヒストリーみたいなものをどんどん集めてきて、照らし合わせながら国際的に汎用性の高い生涯武道論というものを構築していければというふうなことを今考えています。

課題Ⅱは生涯武道インストラクター養成プログラムということですが、これは次の段階ですね。またいつかお話をさせていただければというふうに思います。

最後ですね、今後のスタンスですけども、研究方法論の探求ということですが、やはりですね、レヴィ=ストロースの理論を使って安易にやっていたところ、高橋先生にえらく怒られ

て、「研究方法論は自分で一生かけて作り上げていくもの」ということは、これはもうこの後も肝に銘じてやっていきたいというふうに思っておりますし、自分独自の研究方法論をこれからも作っていかなくちゃいけない。そういった研究をしていく中でのスタンスとしては、何のための研究か、研究のための研究ではなくて、武道実践に役立つような、武道実践の中からの問題意識を、武道実践に根ざした感性で解き明かしていく。そういったスタンスでやっていくべきだろうというふうに自分自身は考えます。

最初に申しあげましたが、目標は文武両道です。ただ、これはもう高い目標であって、なかなか一生かけてもできるかわからない。ですが、研究のスタンスとしては「文武を岐たず(文武不岐)」、剣道の稽古と研究とをリンクさせながら、今後も研究していきたいというふうに思っておりますことをお伝えしまして、私からの話は終わりにさせていただきます。



ご清聴ありがとうございました。

3. 質疑応答

【阿部】ありがとうございました。これまでの研究の経緯とその背景、さらに今後の展望、新たな課題というお話をたくさんいただきました。それでは少し質疑応答のお時間をとりたいと思っております。質問のある方は、挙手していただきますようお願いいたします。また、オンラインで参加されている先生に関しては、Zoomのチャット機能を活用していただくか、挙手の方を活用していただければと思います。よろしくお願ひします。質問がある方、挙手をお願いいたします。

【ベネット】関西大学のベネットです。酒井先生、非常に貴重なお話をありがとうございました。私も昔から先生の研究に非常に詳しいというか、よく英訳する立場で、英訳しながら勉強させていただくことが多くて感謝しています。実はクロアチアのAさんについて、先生がこの間書かれた論文の英訳にちょっと関わっていましたけれども、それを読みながら思うことがありまして、それで1つコメントと、これからの生涯武道インス

トラクターの養成ということについて1つ参考になる話がありますので、ちょっとご紹介させていただきたいと思ひます。

まず1つですね、どうしても日本人は考え方として心身一如と、身体と心が1つになっているという。それに対して、西洋の方で、通説として心身二元論という、デカルトの影響が大きいというふうに、大体そういうふうに2つに分けていることが多いと思うんですけども、私も昔から湯浅先生の本とかを読んだりして、そうかと思ひながら、やってきたんですけども、最近それは違うんじゃないかなって気がするんですよ。だから西洋＝心身二元論ということに関しては、ちょっと考え直す必要があるんじゃないかなと思うんです。当然デカルトの影響が大きかったんですけども、大きい分、それに対して反対している人がすごく多いんですよ。だからそういう決して心身二元論ではなく、日本とよく似たような心身一如ということを強調する、西洋哲学者も結構いるんですよ。だからそのことに関しては、通説ではあるんですけども、ちょっと違う立場からそれを見た方がいいかなと思うんですね。だからそういう意味で、海外において、本当の日本の武道の良さっていうのが、心と身体が1つになってどうのこうのとか、それが日本の伝統的な傾向だから、なかなかそれが海外では伝えに

くいということに関しては、ちょっと違うような気がします。例えば19世紀に流行った、筋肉的クリスチャンというのもありましたし、身体を通じて心を養う、身体が強ければ心が強くなって道徳心を高めて、それが人格形成に繋がるっていう考え方が、前から結構あるんですよ。調べたら調べるほど、どんどんそういうのが出てくるわけですよ。日本の武道論とか、稽古論とか、求道心とか、芸術性に近いものが前からずっとあるということだというのは1つのコメントです。

もう1つ、最後の方の生涯武道インストラクター養成とか、そういうプログラムに関しては非常に面白いなあと思っております。Aさんに関して、そういう戦争で大変な経験をして、それが武道を通じて何とかして自分の人間性を取り戻したという。それが武道の1つの大きな力というか、それが他のスポーツ、競技スポーツと違う。キリスト教でも、なかなかそういうことをできないというのが論文に書かれていたと思うんですけども、実はその武道は不安を解決するためのものとして、結構前から注目されているんですよ。逆に日本ではあまり注目されてないような気がする。海外の方では私の知っている限り、例えばイスラエルの方で、テロの被害を受けた人たちが空手を通じて、その後PTSDとかを何とか解決できるような、そうい





うプログラムが開発されている。今アメリカの海兵隊とか英国の特殊部隊などにおいて、そういうプログラムが開発されて、それが日本武道に限らず、キックボクシングもそうですし、太極拳とか、そういうのを通じてですね、1つのキーポイントというか、人間性を取り戻す。それでトラウマとか、怒りとか、そういうものを抑えろと。実際に今そういうのを結構ところどころやるようになってきているんですけども、今までそれがどれぐらいの効果があるかっていうのは、ちゃんとした研究がなされてないということなので、今度のクロアチアの人のお話を読んで、実際に結構そういうのが世界的にあちこちで行われているということを、情報として先生にお伝えしようと思いました。

すいません、質問じゃなくて2つのコメントをさせていただきました。

【酒井】はい。ありがとうございます。西洋が心身二元論ではないというような話ですけど、私の場合は湯浅泰雄先生の理論に基づいて話をしているわけで、一般論・通説としての話をしているので、ですから特殊なこういう事例があるからそれが

間違いだと言われるのはちょっとどうかというふうに思います。ただ、ちょうど先週、ハンガリーの阿部先生と、それからハンガリーでフランス哲学をやっている日本人で、これからソルボンヌ大学に博士論文を出そうとしている人がいて、その人に頼んで、今、ヨーロッパでどういう武道研究がされているのかというのを、特に今、フランスでやられている研究を調査してもらっているようです。その人とも今度は一緒にやっついていこうかっていう話になっていますが、彼とのディスカッションの中で、今回の論文も読んでもらっていますが、同じようなことを言われていて、実はデカルト以来心身二元論だというふうに言うけど、そうじゃない事例がある、そういう研究はあります。特に第一次世界大戦後ですね、第二次世界大戦よりも第一次世界大戦だそうです。大戦でたくさんの方が死んだ。こういった大きなショッキングなことが起こった後に、身体性の問題というのが出てきて、それで心へアプローチをするというような動きというのは必ず出てきています。そういうことを教えてもらいました。これは面白い話ですし、第二次世界大戦後も、ヘリゲルの『弓と禅』が向こうで爆発的にヒットしたのは、第二次世界大戦後ですね。そういう大戦の後には必ずそういうことが起こってくる。彼とのディスカッションの中で、僕の学説を表

に出していく上で、そういう事例もあるということ承知した上でやるべきだろうと。そうすることによって、色々な学術的攻撃にも耐えられるんじゃないかというサジェスションをいただきました。その通りだということで、今後、そういうような特殊な事例というのも集めていこうと思いますが、ただ、特殊な事例をもって理論を構築しているんじゃない、一般的な事例を前提にやっているということです。

それと、戦争を通して受けた精神的なダメージを解消しているというような事例というのが、所々であるというのはありがたい情報だと思います。先生、それを論文にしてください。論文にならないからみんな知らないんですよ。ですから、こういうのがあるなんていうのは、色々な人が言うわけですよ。僕ら学者がやる、研究者がやるというのは、学問的に証明されたものを世の中に出していく必要があります。ただ、こういうのがあります程度のことを言うというのは、僕は間違っていると思います。そうじゃなくて、それをきちっと学問的に論証し、それを学会に提出し、オーソライズされたものを発信していくっていうのが、僕らの仕事だと思います。

いい意見をいただいたと思います。ありがとうございます。



【阿部】 そうしたら時間もあまりないのですが、あと1名質問のある方いらっしゃいましたら、お願いいたします。

【松井】 すいません、筑波大の松井です。柔道専門分科会の者なんですが、酒井先生のお話があるということで参加させていただきました。本当に講演に感銘を受けまして、今日も参加させていただいてよかったなと思っています。

後半の方で、海外での剣道の効果で、実際にそう感じていらっしゃる経験者がいると。求道的なところから、それがいわゆる剣道の効果だと思うんですけども、例えば、鹿島神宮なんかで、先生が肌で感じながら行間を読む感性を養われたときに実施されたような、冷たい水に入るとか六甲山で火渡りを行うとか、そのあたりとの共通性というのはどの辺にあると思われるかという、本当に素人なりの発想なのですけども、もしご意見があればということです。

【酒井】 結局そういう精神的な効果というのが、火渡りとか、水に入ったりというようなこととの繋がりを経験的にやっぱり知っていたということがあるので、近世の武術家は、修験道の修行を援用していったんだと思

います。それが文献上に表れてくるか、それはなかなか今事例を見つけられませんが。ただ現代で、実際そういった修験道の修行みたいなのが剣道の稽古にどういうふうに影響があるのかというのは、松井先生が得意なところなので、共同研究でやりますか。

【松井】 私で良ければぜひお願いします。

【酒井】 ネズミじゃなくて人間でね。

【松井】 私もぜひ体験しながら。

【酒井】 剣道の稽古をやってオキシトシンが出るとかですね、そういうのをね、1回ちょっとやってみたい。

【松井】 ぜひ。今回、柔道で出ましたので、竹刀や面を通じてもできるのかというところで。

【阿部】 はい。どうもありがとうございます。オンラインで参加の方1名質問があるということですので、最後の質問ですけども、よろしくお願いたします。

【佐藤】 フリーライターの佐藤です。普段、メディアに海外剣道について寄稿したり、剣道時代の英語版の運営をしているんですけど、現地の方々がどんな気持ちで剣道に取り組んでいるのかを、声をいただいているんですが、最近、空手の実践者の方にも声を聞く機会があって、現地で空手をはじめた方や、現地で空手を指導されてる方か



ら、お話を伺っているんですけど、本日の発表で、スナイパーの方が空手を14歳で始めて、それが駆け込み寺になったというお話があったかと思うんですけど、これはどういうふうな点で、空手が駆け込み寺になれたのか、お聞きできればと思い、質問させていただきました。よろしくお願いたします。

【酒井】 ああいう劣悪な家庭環境から脱することによって、自分の中で居場所を見つけたということだと思いますけども、本人じゃないんでわかりませんが、やっぱり何らかの「深み」みたいなものを、武道に彼は感じていたと思います。一番印象的だったのが、例えば、マラソンであれば、何か自分でこういう問題を解決しようと思ってマラソンをする、1時間2時間走れば、何とか気分的には回復するという経験はできるんですけども、それが慣れてくると、それは特別なものではなくなると、もうどうにもならなくなる。だけど武道の場合には、次々と「深み」が出てきて、追求していくとどんどんどんどん深いものが現れてくる。だから、武道とスポーツは違うんだと。だから、それによって自分の何か精神的なものを回復して

いくというようなことも言っていますので、特別に武道に駆け込み寺を見つけたっていうのも、そういうところも感じていたんではないかというふうに思います。ただ、本人がそう言ったわけではありませんけれども。その時点で、14歳の時でそう思ったかどうかわかりませんが、後にそういうことを言っています。ご質問ありがとうございます。



ありがとうございます。

【大塚】酒井先生ありがとうございました。研究会のまとめといたしまして、剣道専門分科会、長尾進会長よりご挨拶を賜ります。よろしく願いいたします。

【長尾】酒井先生、ありがとうございました。酒井先生とは、先生が学生の時から30年以上になりますかね。卒論のときから、大学院生時代からずっと研究も横から拝見してきたことはありますが、改めてこうやって今日、体系的に見せていただいて、研究をステップアップしていくものすごいエネルギー、それを改めて感じさせてもらって、今、また新しいステージで「海外からの視点」が今日、キ

ーワードだったんですね。我々は、武道っていうのは教育的であってほしい、教育的であれと思っているんですが、現実、海外でも今日やっている人は、今も命のやりとりしている人もいますよね。今日は佐藤さんも来ていただいて、武道館の方も来ていただいていますが、先日のヨーロッパ選手権でも、もう爆撃の激しいハリコフからウクライナの会長がクラウドファンディングで来ておりました。我々は平和な日本にいて、どうしても武道というのは別に考えたいというところがあるんですが、海外にはそういう地続きのところもあるという中で、色々な研究のあり方がこれから出てくるというのを、今日、酒井先生の発表で特に若い人たちは刺激を受けられたんじゃないかというふうに思います。この剣道専門分科会、ずっとその時々で時宜を得たテーマを扱ってきたと思いますけれども、ぜ

ひ、今日お集まりの、特に若い先生方、もちろんベテランの先生方もそうなんですが、今日の酒井先生の話をもつて、参考にして皆さんがやはりそういったことをこれから考えていっていただきたいというふうに思います。オンラインで参加の皆様、本当にありがとうございました。これから秋の武道シーズンが始まり、皆さんも忙しくなるとは思いますけれども、どうぞ皆さんそれぞれの場で、今日の話にもありました

「文武不岐」、これを続けていっていただきたいなというふうに思います。酒井先生に今一度盛大な拍手をお願いいたします。

これで今年度の剣道専門分科会企画を終了させていただきたいと思っております。どうぞ、特に西日本の方は台風の接近していることですので、お気をつけてお帰りいただきたいと思っております。ありがとうございました。



令和3年度日本武道学会剣道専門分科会研究会

ブラジルの剣道事情最前線

講師：尾中・エウザミ・美和 氏（サンタカタリーナ州文武館
道場剣道指導員、フレイロジェリオ市市議会議員）

司会：大石 純子 氏（筑波大学体育系・准教授）
奥村 基生 氏（東京学芸大学・准教授）

日時：令和4年3月19（土）9：00～10：30

場所：ZOOM ミーティング

1. イントロダクション

【奥村】それでは、令和3年度の日本武道学会剣道専門分科会研究会を開催したいと思います。本日司会を務めます、東京学芸大学の奥村です。筑波大学の大石先生とともに、司会を務めさせていただきます。

【大石】よろしくお願ひいたします。

【奥村】よろしくお願ひいたします。はじめに、会長挨拶をいただきます。長尾先生よろしくお願ひいたします。

【長尾】皆さん、おはようございます。年度末のお忙しいところ、ご参集いただきましてありがとうございます。ご準備にあたられた大石先生、奥村先生をはじめとした皆様に御礼申し上げます。また、講師を務めていただきます尾中先生もありがとうございます。今の時間だと、ブラジルは「こんばんは」ですかね。ようやくコロナも落ち着いてきて、剣道にも復活の兆しがいろいろなところで見られるようになりました。日本でも京都大会が2年ぶりに行なわれます。おそらくブラジルの方でもすでに、いろいろな復活の動きが出てきているかと思ひます。しかし、私もいま国際剣道連盟の事務総長を務めさせていただいて、非常に悩ましいのが、マスクをつけるかどうかという問題です。これは国によって違いますし、その国の法律によっても違います。そういったところでどの

ようにコンセンサスを取りながら、今後、剣道がポスト・コロナに向けて進んでいくのか、そのような点からも非常に今日は楽しみにしております。ぜひ、ブラジルの今の状況を詳しくお話しいただけると私たちも大変参考になると思ひますので、尾中先生、よろしくお願ひします。それと、今日少し残念なのは全日本剣道連盟のブロック別講習会というものがありまして、今日は栃木で行なわれております。香田先生をはじめ、本当はここへ参加したかった先生方もおられるのですが、そのために今日はせつかくの尾中先生のお話を聞けないということで、くれぐれもよろしくお伝えしてくださいと言われておりますので、お伝えしておきます。奥村先生、ありがとうございます。以上です。

【奥村】はい、ありがとうございます。それでは改めて本日の演題は「ブラジルの剣道事情最前線」で、尾中・エウザミ・美和先生に

ご講演をいただきます。講演の流れは、最初に大石先生より尾中先生のご紹介をいただきます。次に、尾中先生のご講演が約60分、質疑応答が約30分で、最後に幹事長の酒井先生より挨拶をいただいて終了という流れになります。では大石先生、尾中先生のご紹介をよろしくお願ひいたします。

【大石】よろしくお願ひいたします。皆様、改めてまして、おはようございます。筑波大学体育系の大石純子でございます。本日は、どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、私から今回ご講演をいただきます尾中・エウザミ・美和先生について、ご紹介をさせていただきます。先生は、1979年12月21日にブラジル・サンタカタリーナ州のクリチバーノス市にお生まれになりました。2002年にサンタカタリーナ国立大学体育学をご卒業され、その後文部科学省を通じて来日され、2005年から2006年3月まで筑波大学にて研究生として過ごされまし



参加者は約30名であった



た。その後、2006年4月から筑波大学大学院修士課程の大学院生として、剣道コーチング論研究室に所属され、指導教員の香田郡秀教授の下で、研究と稽古に励まれました。修士論文では「外国人の剣道指導法の研究」、特にブラジルにおける初心者の剣道離脱問題について調査・研究をされました。そして、体育学の修士の学位を取得されております。尾中先生の主な競技歴といたしましては、世界剣道選手権大会に第10回から第16回大会のそれぞれに出場され、特に第10回大会では女子個人2段以下の部で準優勝、そして第11回大会では女子団体準優勝、14回・15回・16回大会では女子団体3位といった成績を残されております。選手としてのご活躍に留まらずに、2011年の24回、そして25回・26回の欧州剣道選手権大会におきましては、スイスチームの監督を務められました。この他にもチリ、エクアドル、メキシコなど世界の各地で剣道指導をされております。現在は、ブラジル代表チームの女子の監督として活動されるとともに、日本語教師、サンタカタリーナ州の文武館道場の剣道指導者、ラーモス日伯文化協会の事務局と会計担当、フレイロジェイロ市の市議会議員など多方面に渡り、大活躍をされております。本日は、多彩なご経験を踏まえたお立場から、ブラジルの剣道事情の最前線についてご講演をいただきます。それでは尾中先生、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 講演

【尾中】皆さん、こんばんは。おはようございます。今日はどうぞよろしくお願いいたします。今回は、剣道専門分科会の皆様から講演にご招待いただき、誠にありがとうございます。コロナになって世界中で剣道の稽古ができなくなり、多くの人達が悩んでおり、今はオンライン活動を始め、オンラインで稽古をする国が多くなりました。さらに、セミナーなどもいつも以上に行なうようになりました。私は、コロナの時期にブラジルの国内の道場や大学、そしてラテン・アメリカのエクアドルの人たちにインタビューなどを行ったのですが、今日は日本の先生方、剣道を専門とされる研究者の方々に、剣道のことをお話しすることに、大きな責任を感じています。あと、とても緊張しています。この日のために、ブラジル剣道連盟の方々、そしてブラジルの歴史を研究している小林さんからたくさんの情報をいただき、皆様にブラジルの剣道事情を少しでも知っていただけたら、とても嬉しく思います。それでは、奥村先生にパワーポイントの準備をしていただいたので、奥村先生にそのスライドを皆様にご覧にいただけるようにさせていただきます。よろしくお願いいたします。私は、あまり日本語を使わないので、少し間違った日本語を話すかもしれませんが、よろしくお



願いたします。

本日は「ブラジルの剣道事情最前線」というテーマで発表をさせていただきます。最初に、ブラジルの剣道の歴史をお話しする前に、先生方をご存知だと思いますけれども、ブラジルの基本情報についてご説明させていただきます。ブラジルは、26の州と1つの連邦首都府によって構成されています。面積は851万km²で、世界で5番目の面積を持っています。日本と比べると22倍の大きさです。人口は約2億人で、いま私が住んでいるサンタカタリーナ州は、ブラジルの南に位置する州です。私たちが全伯大会や代表チームの合宿に参加するときはいつもサンパウロ州で行います。私が住んでいるところからサンパウロまで739kmあり、バスで12時間くらいの距離です。ですので、夜にバスに乗って、朝に会場に到着して試合に出るということをしていました。あと、南米大陸で最大の面積を占めています。南米大陸は、ブラジルを含めて13カ国ですが、ブラジルと接していない国は、チリとエクアド

ブラジルの剣道事情 最前線



尾中エウザミ美和

ブラジルの基本情報



ブラジルは、26の州と一つの連邦首都府によって構成されている

面積
851万平方キロメートル

人口
2億人

ブラジルの基本情報



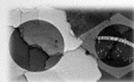
南米大陸で最大の面積を占めている

ブラジルと接していないのはチリとエクアドルだけである

ブラジルは多民族国家である

ルだけです。ブラジルは多民族の国家で、ドイツ人、イタリア人、ポルトガル人、日本人、アフリカ人などの多様な民族が集まり、多文化社会を形成しています。

ブラジルの剣道の歴史は、日本人がブラジルに移民した歴史と直接関係しています。1908年に26万人の日本人がブラジルに移民し、笠戸丸の中で剣道大会が行なわれたという記録が残っています。現在は1900万人以上の日系人がブラジルに住んでいます。世界で最も日系人が多い国です。1932年に伯国柔剣道連盟が設立され、1970年に日本で行なわれた第1回世界大会にも参加しています。1982年にブラジルで初めて世界大会を行なうために、その1年前の1981年に、サンパウロ剣道フェデレーションが設立されました。今のブラジル剣道連盟は、1998年に設立され、現在は剣道以外に居合道や杖道も剣道連盟の一部として加わっています。2009年に2回目の世界大会を開催しました。



ブラジル移民と剣道の歴史



1908年 26万人の日本人がブラジルに移民し、笠戸丸で剣道大会が行われた記録がある。現在は約190万人以上の日系人がブラジルに住んでいる。世界で一番日系人が多い国である。

1932年 伯国柔剣道連盟が設立

1970年 第1回世界剣道選手権大会に参加

1981年 サンパウロ剣道フェデレーションが設立

1982年 第5回世界剣道選手権大会が開催

1998年 ブラジル剣道連盟が設立され、現在は剣道以外に居合道と杖道も連盟の一部として加わっている

2009年 第14回世界剣道選手権大会が開催

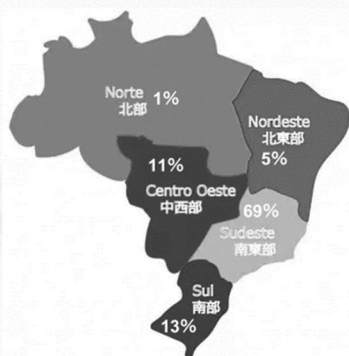
次のデータなんですけれども、ブラジルの競技人口ランキングトップ10のスポーツなのですが、その9位に柔道が入っています。柔道は220万人の競技人口が示されています。空手はトップ10に入っていないのですが25万人。剣道は本当に少ない人口ですが727人です。コロナになってから少し減ったのですが、コロナ前には1000人程度いました。コロナになってから大会もなく、セミナーもなく、昇段審査もなかったので、組織から出る人が多くなり、200人くらい出てしまいました。世界で日系人が一番多い国としては、剣道の人口は非常に少ないと思います。このデータは、ブラジル剣道連盟に登録されている人口なので、実際にブラジルの中でどれくらいの方が剣道をしているかは正確には分かりませんが、先ほどの727人は剣道連盟

現在のブラジルの剣道人口

スポーツ	人口	ランキング
サッカー	3000万	1
バレーボール	1500万	2
卓球	1200万	3
水泳	1100万	4
インドアサッカー	1000万	5
カポエラ	600万	6
スケート	270万	7
サーフ	240万	8
柔道	220万	9
陸上	210万	10
空手	25万	
剣道	727	

Atlas do esporte

地域別の剣道人口の割合



剣道の道場は52カ所

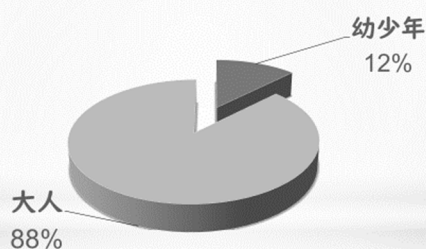
ブラジル剣道連盟のデータ

段位の割合

段位	人数
I級	117
初段	155
二段	119
三段	124
四段	72
五段	32
六段	23
七段	16

ブラジル剣道連盟のデータ

幼少年と大人の割合



に登録されている人たちです。

地域別の剣道人口の割合について、ブラジルはこちらの地図のように5つに分けられています。北部が1%、北東部が5%、中西部が11%、サンパウロとリオの州が入っている南東部が69%、南部が13%です。ブラジルにある道場は52ヶ所ですが、私がいるサンタカタリーナ州は、私の道場しかブラジル剣道連盟に登録されていません。ですが、私が大学時代に

いたサンタカタリーナの首都のフロリアノーポリス、サンタカタリーナの人口が1番多いジョインヴィレの2つの町にも道場があります。しかし、大会に行くときは皆集まって1つの道場として全伯大会に参加します。本当は、サンタカタリーナ州は3つの道場がありますが、数としては1つとなっています。他の州も同じようなことがあると思いますので、本当はもっと道場があると思

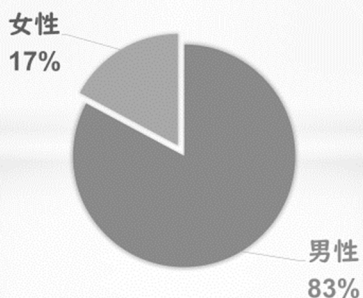
ます。

コロナになってからブラジル剣道連盟は、オンライン稽古を積極的に始めました。世界大会がキャンセルされる前にも、皆さんオンラインで練習をしていました。コロナが流行ってから2年間くらい経ちますが、今でも毎日オンラインの稽古があります。朝6時くらいに1000本の素振りの練習や子ども向けの練習、女子の練習、男子の練習があります。そして日曜日は、私が唯一参加するオンライン稽古なのですが、そこには世界大会の選手になりたい女子と男子の選手のグループが集まります。朝の7時から9時まで、毎週の日曜日に稽古をしています。今年から少しずつ道場に行き始めていますが、今までの2年間ずっとブラジルでは道場に行けませんでした。北部の人たちは、サンパウロまで行って剣道の指導を受けるために1年に1回くらいしか行けないんです。そこで、オンラインの稽古が始まって、私たち監督が、男子も女子も一緒に稽古を見てアドバイスをしたり、指導をしたりしています。ですので、三段か四段くらいの人で道場の先生をしている方には、すごく良い方法だと思います。ブラジルは広い国なので、そのような方法で指導をすることは、多くの内容を知ることができるので、すごく良いと思います。

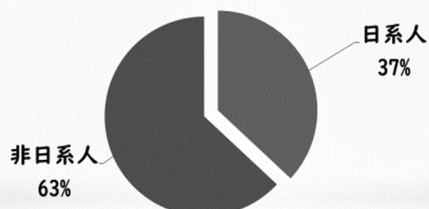
こちらは、ブラジル内の剣士の段位の割合ですが、段を持っていない人もたくさんいます。六段や七段は本当に少ないです。ブラジルで唯一、八段に合格した岸川ロベルトさんがいますが、何年もブラジルには住んでいないので、残念ながら、ブラジルで指導を行っていない八段の先生は1人もいません。先日、ロベルトさんと一緒に筑波大学で合宿を行ないましたが、ずっと他の国で剣道の指導を続けています。

こちらのグラフは、幼少年と大

性別の割合



日系人の割合



人の剣道人口の割合です。このデータを見ると、子どもで剣道を行っている人は本当に少ないことが分かります。今、私の道場にも子どもの生徒がいるので、大会に参加しますが、私の時代と比べて4分の1くらいに減っています。本当に少ないです。ブラジルの剣道の質を向上させるためには、子どもの頃から剣道をする必要があると思います。ですので、私もブラジル剣道連盟も、子ども

の剣道人口を増やすという大きな課題を持って活動しています。私は来月から5歳から11歳の11人の子ども達に剣道指導を始めます。

こちらのグラフは、女性と男性の剣道人口の割合ですが、女性も本当に少ないです。日本のデータがどのような状況なのかは分かりませんが、ブラジルのデータで男性と比較すると本当に少ないです。しかし、世界大会でブラジ

ルの女子はいつも良い成績を残しています。人数は少なくても、皆強い人たちです。男性よりも良い成績を世界大会で残していません。

こちらは日系人の割合です。私はこのデータを見て本当に驚きました。私はてっきり日系人が多いと思っていました。私が全伯剣道大会に出ていた頃は、まだ日系人の方が多かったです。ブラジルの剣道の歴史を研究すると、剣道を始めた日本人一世の方、剣道は主に日本人の組織、そして文化協会や移住地の中の人たちだけでやっていたので、非日系人が剣道をする機会はほとんどありませんでした。ですが、現在は日系人を上回っています。ブラジルは第1回から世界大会にずっと参加していますが、これまで世界大会に出場した人はほとんどが日系人で、非日系人は男性も女性も1人だけ出場したことがあります。それ以外は皆今まで日系人でした。ですので、このデータは今後、変わるかもしれないですね。日系人の割合は少なくなってきました。この写真は、ブラジルの剣道、世界大会以外にどんな選手たちが剣道をしているのかを皆様にご覧になっていただくために持ってきました。この写真を見ると、非日系人が多いことが分かるかと思います。本当に日系人は少なくなってきました。

これまでブラジルの剣道のことをお話しさせていただきました。ここからは、サンタカタリーナ州の剣道の歴史や私の剣道の経験をお話しさせていただきます。私が生まれ育った場所は、ラーモス移住地と言います。サンタカタリーナ州の政府と日本政府に支援をしていただき、サンタカタリーナ州とリオグランデ・ド・スル州との初めての日伯移住地が造成されました。1971年に尾中弘孝さん、私の父なんですけれども、19歳で奈良県の十津川か

サンタカタリーナ州の剣道

- 1964年 ラーモス移住地が造成
- 1971年 尾中弘孝さんが19歳で十津川村から一人で防具2組を抱え、ブラジルに渡り、ラーモス移住地に移住
- 1971年 移住地の両親達に支援され剣道指導を開始
- 1986年 剣道専用の道場が建築された



私と剣道

- ・ 子供の頃の思い出
- ・ 剣道の先生が父であったこと

ら1人で防具2組を抱えて、父は「財布に100ドルしかなかった」と言っておりましたが、100ドルと防具2組でブラジルに渡り、ラーモス移住地に移住しました。ラーモス移住地に着いてすぐ、村のリーダーや両親などの支援をいただき、剣道の指導を開始しました。最初の頃は8人の子ども達に指導をしていたそうです。父の思い出話なんですけれども、1974年に子ども達を連れて初めて全伯大会に参加し、1人優勝したみたいです。1番印象に残っていたことは、他の道場の子ども達の防具を借りて、代わりばんこで試合に出ていたことです。皆防具がなかったのです。試合と試合の間に防具を借りながら試合に出ているという話を聞いていました。1986年に剣道専用の道場がラーモス移住地で建設されました。ブラジルでは、ほとんどの道場が体育館で稽古をしていて、硬い床で剣道をしています。剣道の踏み込

みの音がしない状況で剣道の稽古を行なっています。私はずっと長い間、良い道場で稽古をしてきたので、合宿や大会に行くときぐく足が痛くて、皆さん本当に大変なんだなといつも思っていました。ですので、合宿や大会などを私たちの道場で行なう時には、ブラジル全体から参加してくれました。皆、サンタカタリーナの道場は良いといつも言っていました。

私は父が剣道の先生でしたので、いつ剣道を始めたのかはあまり記憶にありません。子どもの頃は、ずっと道場に行って剣道を見学していましたので、始めた時の稽古の記憶は全然ありません。ですが、ラーモス移住地の子ども達同士で、剣道を遊びながら楽しくやっていることはしっかりと覚えていてます。小さい頃は「剣道は遊び」という思い出があるんですけども、私たちは両親から実家で挨拶や礼儀作法なども習って

いたので、それを道場でも実践していました。少しずつ大会に参加し始めるようになり、身体も少し大きくなってくると、楽な剣道が少しずつ厳しくなってきました。道場では週に3回の稽古を行なっていましたが、大会が近づく時期はそれとは別に私と兄と父の3人で特別稽古を行なっていました。その稽古の内容は、主に掛かり稽古でした。そして、2人だけが父に掛かっていたので、本当に厳しい稽古でした。時々、息が止まったりしていました。息が続かなくなると父が稽古を止めてくれましたが、そうなるまでは止めなかったですね。時間も計らずに自分の限界までやっていたので、本当に今思えば厳しかったと思います。父は家であり話すタイプではありませんでしたが、強く厳しい剣道の稽古を通じて、私たちがいろいろな問題や難しいことがある時に乗り越えられるように、言葉なしで私たちを育ててきたのかなと私は思っています。今、思い返してみると、そういう稽古があったから私たちは強くなれたのだと思います。本当に、厳しい稽古には感謝をしています。

こちらは、私が出場した合計7回の世界大会の写真です。私が初めて世界大会に出た時17歳でした。ブラジルの代表チームに入るために、試合に参加しないといけませんでした。私と友達3人か4人で、当時は16歳で、サンパウロに2回か3回くらい行って、試合で良い結果が出た人が選手になることができました。それで私は、3つの試合の合計が良かったので選ばれました。私はずっと小さい時から田舎で生活をしていたので、あまり都会には出ず、1年に1回だけサンパウロの大会に参加していた程度でした。あまり剣道の試合の風景や状況を理解していなかったため、世界大会に出た時には本当に驚きました。

世界大会の経験



第10回世界剣道選手権大会
京都



第12回世界剣道選手権大会
グラスゴー



第14回世界剣道選手権大会
ブラジル



第15回世界剣道選手権大会
イタリア



第11回世界剣道選手権大会
サンタクララ



第13回世界剣道選手権大会
台湾



第16回世界剣道選手権大会
東京

剣道は世界でこんなに愛されているんだということを実感し、本当に感動的でした。私は2段以下の部で、決勝戦まで進みましたが、私はその時若くて最初の世界大会だったので、あまり緊張はしていませんでした。試合に勝って勝って勝って「次、決勝ですよ」って言われて「え！」と思い、もうこんなところまで来たのかと驚きました。本当に1つ1つの試合を頑張って、次に何が来るのかを全然考えずに頑張っていました。若い時はあまり考えずにやっていたので、それが良かったのだと思います。そして、決勝戦は筑波大学の高嶋さんでした。初めて日本人と試合をしたのが決勝戦です。

2回目に世界大会に出場した時は、アメリカのサンタクララでした。当時の私は大学生で、私の道場から350kmの町に引っ越しをして、初めて剣道の相手がいないところに住みました。そこでは、相手がいなかったので「ありがとう」や「お願いします」という言葉の大切さを初めて実感しました。いつも当たり前のように相手がいたので「お願いします」「ありがとうございます」と言っていました。その頃は本当に誰もいませんでした。竹刀を持つ人もいないし、切り返しや面打ちをする人もいなくて、そのような状況でも世界大会には出場しないといけませんので、1人で素振

りや縄跳びとか、陸上の選手たちと一緒に足の練習やトレーニングなどをしていました。本当に、そこで相手を尊敬することや相手に感謝をすることは本当に大切なんだなと思いました。サンタクララの時に私は20歳で、大将になったり、副将になったり、オーダーをいろいろと変えたりしていました。カナダと準決勝をしたのですが、副将までが引き分けでした。その時、私は初めて大将をしたのですが、チームメイトに「負けたらダメですよ！」と言われて、そのまま試合に入って、とてもプレッシャーでした。試合では1本でも取られたら負けという状況だったのですが、なんとか1本を取って、それを時間が終わるまで死守しました。その結果、女子団体に初めて2位になることができました。

第13回の世界大会は台湾で行なわれまして、これはその時の女子の写真です。この5人の中の3人がラーモス移住地の選手でした。私と妹と本多泉さんの3人が私の道場出身で代表選手でした。

ブラジルでの世界大会の時には、大会の2週間前に国士館の右田先生に来ていただき、皆で特訓をしました。その時は、皆が右田先生の仰ったことを全部「はい！はい！」と言っていました。そのような監督がいたことで皆が自信を持って試合に出ていると思います。本当に良い経験でした。

イタリア大会の時の思い出は、女子団体のオーストラリア戦ですね。オーストラリア戦で私は大将をしていたのですが、私の前までのスコアでは負けていました。私が大将戦で2本を取らないと代表戦にすらならない状況でした。なので、4分間の中で必死に頑張って2本を取って、代表戦でもう1本を取って3位になりました。私はほとんどの大会で大将をしましたが、そのような大将の役割はほぼありませんでした。いつも仲間たちが勝ってきてくれたので、私はいつもリラックスして試合ができました。でも、イタリア大会の時とサンタクララ大会の時は、大将の責任をとっても感じました。

そして、日本で行なわれた第16回大会です。私は引退することを決めていましたが、日本で行なわれるということを知ったので、「もう1回頑張ろう！」という気持ちで引退を伸ばしました。また、世界の剣道選手たちの多くは、日本武道館で剣道をするのを夢にしている人は多いと思います。ですので、もう1回頑張って最後の世界大会に出場しました。

生徒から先生への役割ということで、私はずっと生徒だったので、先生になるということは全く考えていませんでした。私が大学生の時のことですが、1人の大学生が私を訪ねてきて「剣道を教えてくれませんか？」とお願いをされました。私は「指導をしたことがないから嫌だな」と思っていたのですが「3人か4人の仲間を連れてきたら教えてあげる」という約束をしました。この約束をすれば、もう来ないだろうと思っていたのですが、次の週には4人~5人くらいの男性達が来て「じゃあ、お願いします！」ということになり、断ることができなくなってしまい、どうしようもなく剣道の指導を始めることになりました。私

生徒から先生への役割



は、私達が指導をされてきたように伝えていたのですが、文化の違いもあるし、いろいろと説明をしないとイケない部分があり、本当に最初は不安でした。私だけではなく、ブラジル全体の友達も剣道の指導を始めました。日系人が少なくなった一方で、非日系人が剣道に興味を持つようになりました。日系人ではない人たちに指導をするに当たって、誰もそのような経験がなかったので、10年間ずっといろいろな工夫をしながら指導方法を考えてきました。ですので、筑波大学に来た時には、それを研究したいと思っていました。「どうして初心者は早く剣道を辞めてしまうのか」ということです。いっぱい入ってくるんですけども、いっぱい出ていってしまうという問題が、ブラジルの剣道の道場でたくさんありました。日系人の時は親が連れてきて、辞めたくても辞められません。ですので、そのように剣道を辞めるということはあまりなかったので、そこで剣道が続けるためにはどのような指導をすれば良いのかを、本当に研究したいと思いました。指導をしている間に、習いながら、間違いながら、最近になって何となく分かってきたような感じがします。

日本での剣道修行の話ですが、私は世界大会が終わった1997年に、少し日本に残りました。5ヶ月間くらいですかね。父は奈良県

の十津川の人なので、親戚が天理大学の先生の知り合いで、その繋がり、天理大学で4ヶ月くらい剣道の稽古をさせていただきました。その時はまだ17歳だったので、剣道の基本があまりよくできていませんでした。当時の天理大学の女子はとても強かったです。私はいつも素振りの時に後ろの方にいましたが、竹刀の動きや素振りの動作がとても綺麗で、いつも同じところ通って真っ直ぐ素振りができることが本当に不思議だと思っていました。私はいつもちょっと右、ちょっと左に曲がってしまい、竹刀を上手くコントロールできていませんでした。そのような素振りを初めて見て「あー、私も同じような素振りをしたいな」「まだまだ修行が足りないな」と思ったことを覚えています。

国士舘大学は、兄が2年間くらい剣道の稽古をしていたので、その時にお世話になりました。兄は、

ちょうどその時にアキレス腱を切ってしまっていて、1ヶ月程度、国士舘で稽古をしました。国士舘大学の稽古は、追い込みがすごかったです。そこで初めて、あのような高いレベルの追い込みを見て、本当に驚きました。そして、朝のトレーニングやジョギングなどのトレーニングをしたのですが、本当に厳しい練習でした。

2005年に文部科学省を通じて、筑波大学に3年間、お世話になりました。この写真は、その時に先生方と一緒に撮った写真ですが、本当に良い思い出です。香田先生が「一緒に写真を撮りたいんだろ！入れ！」と仰って、一緒に入って先生方と写真を撮って良かったと思います。その3年間、ずっと毎日、先生方や先輩方に指導をしていただき、本当に楽しかったです。今振り返ってみても、本当に良い環境にいて、本当に良い先生方に出会えて、本当に良かったと思っています。

私が台湾大会に出場した時は2006年で、筑波大学にいたのですが、台湾大会の個人戦の1回戦で日本の小室選手と当たりました。この写真にありますけれども、第1回の世界大会で日本の京都に行った時に、小室選手は国士舘大学の学生さんだったので、ちょうど小室さんと試合をしました。ですので、強いということは知っていましたが、当時の筑波大学には上段の選手が誰もいませんで

日本で剣道修行 (天理大学/国士舘大学/筑波大学)



した。先生方には「日本人と当たるのは運がないな」と言われましたし、ちょうど日本で修行をしていたのに、最初に日本人と当たるのは本当に残念でした。ですが、私のために香田先生、酒井先生、鍋山先生、有田先生、奥村先生が皆稽古をする時に上段を取って、私と稽古をしてくださいました。それが本当に嬉しくて、先生たちからすれば大したことではないのかもしれませんが、私にとっては本当に一生の思い出です。本当に感謝をしています。本当は試合に勝って、結果で感謝をしたかったのですが、残念ながら負けてしまい、恩返しをすることはできませんでした。このような先生方と一緒に剣道ができたことは、本当に幸せだったなと思っています。そして、筑波大学の特徴というか、他の大学との違いを感じたことは、先生方を始め、先輩方も剣道のアドバイスがとても上手でした。単に「間違っている」だけじゃなくて、「どうして間違っているのか」「どうして良くならないといけないのか」「それを良くするためには、どのような練習をすれば良いのか」、そのようなアドバイスをするのがとても上手でした。このようなアドバイスを私は毎日聞きながら、私の剣道の技術の向上だけではなく、剣道の指導の技術を学ぶことができたと思います。3年間の中で稽古や授業や論文など、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

選手から監督への役割について、私が初めて監督をしたのは、ヨーロッパ大会のスイスの代表チームでした。皆、なぜスイスの監督になったのか不思議に思ったかもしれませんが、当時のキャプテンであった木村オスカルさんはブラジル人で、スイス人と結婚してスイスに住んでいました。そして、スイスの代表チームに入ってキャプテンになり、ブラジル

選手から監督への役割



の先生たちを招待したことがきっかけで、私がコーチをするようになりました。私は世界大会のような大きな大会があるとは知らなかったの、ヨーロッパ大会があるということを知ったこともなかったし、もちろん見たこともなかったの、ヨーロッパ大会に行ったときはとても驚きました。とても良い勉強になりました。短期間でしたが、チームと触れ合っただくさんの稽古をして、繋がりがとても良くて、本当にチーム1つになって、良い結果を残すことができました。スイスの代表チーム初の男子団体戦で3位、個人戦も1人3位に入賞しました。ブラジルの代表チームの監督のお仕事は、スイスの監督とは全く違う経験でしたね。なぜかという、私は選手を引退してすぐに監督になったので、選手たちは皆、私が世界大会に参加していた時の仲間のようなので、です。皆友達というか、18年間以上も選手の役割をしていたので、合宿などに参加する時には自然と選手たちの中に入って素振りや掛かり稽古をやっていました。他の先生方からは「監督なんだから見なさい！」と良く言われていました。本当に、そういう「縁」を切ることがとても難しかったです。また、1人1人の選手たちにアドバイスをやる際、筑波大学で習ったことですが、チームを1つにすることが難しかったですね。ブラジルで

も、私はサンタカタリーナに住んでいて、サンパウロはとても遠くて、毎日選手の稽古を見たり、チームの試合などを見ることはできなかったの、ブラジルの監督としてはとても難しさを感じました。これから、監督としてたくさんの方のことを学ばなければいけないと感じました。いろいろなことが終わってから、いろいろとところが間違っていたことに気づき、自分の監督としての役割がまだまだ足りなかったなと思いました。

海外の剣道指導の経験について、私は小さい頃からずっと「剣道をしながら世界を1周したい」という夢がありました。それをいつも思いながら剣道をしていたのですが、知らないうちに夢が叶ってしまいました。私が旅行をする時には、いつも防具と竹刀を持って行って、いろいろな場所、たくさんの方と出会い、剣道をしていて本当に良かったなと思いました。どこに行っても剣道の仲間だったら本当に優しくしていただき、家族のような、とても良い環境で剣道をさせてもらいました。「剣道をしている人は、皆良い人なんだな」といつもそう思っていました。そのような経験ができて、本当に感謝しています。

子どもの剣道指導については、私は2010年に実家に戻ったのですが、その頃は誰も剣道をする人がいなくて、私と兄と妹か、私と

海外剣道指導の経験



チリ



エクアドル



メキシコ



スイス

子供に剣道指導



移住地の環境は文武館道場での剣道発展に深く影響している



兄の2人だけで道場に行って剣道をしていました。それから少しずつ子ども達への剣道指導も始め、いつの間にかたくさんの子どもが剣道を始めていました。やはり、大人への指導と子ども達への指導は本当に違って、子ども達の成長といっても人間的な成長や剣道の技術の成長もありますが、小さい頃には頼りなかったあの子が、あんなにしっかりしたのだなといった満足感が感じられて、

子ども達に剣道を教えることは本当に良いことだなと思います。また、私が剣道で習ったことを少しでも子ども達に伝えられたら、とても嬉しいです。その移住地の環境が私と今の私の生徒達に深く影響していると言いましたが、私が住んでいるラーモス移住地は、ずっと何十年も皆さんがここに来て「50年前の日本がここにある」ということを日本人が来た時に良くお話しをされます。ここ

では、日本人会の授業で運動会や演芸会、日本語学校、カラオケ、太鼓、剣道、踊り、新年会や桜祭りなどのたくさんの行事を行なっています。本当に田舎なので、日本の食べ物を食べたかったら自分で植えて育てなければならぬので、豆腐やこんにゃく、味噌などは皆自家製です。そのような環境で、例えば子ども達と共同作業を行なう時には、子どもから大人、祖父、祖母と一緒にいきます。そのような環境があるから、親達の支援があるから今も剣道が続けることができていると思います。時間は大丈夫ですか。

【奥村】はい、大丈夫です。あと3枚くらいですよ。大丈夫だと思います。

【尾中】文武館道場は、36年前の1986年に建てられました。いろいろな思い出がたくさんあります。この写真は筑波大学の選手たちが合宿に参加してくれた時の写真です。進藤選手や佐藤選手などが来られた時のものですね。このようにいろいろな国やブラジルのいろいろな場所から来ていただき、本当に良い思い出がたくさんあります。36年前の板で作られた道場で、壁も全部が当時の板なので、雨漏りや床も悪くなってきたので、解体することになりました。

道場を解体する時には、道場の生徒の子どもから大人までの皆が金槌を使って、床を外したり、屋根を取ったり、皆と一緒に共同作業で行ないました。ですが、解体をする時には本当に心細くて、寂しかったです。でも、新しい道場を作ってもらえるので、未来に向けて、新しい道場でもたくさんの思い出を作ろうという気持ちで解体しました。

新しい文武館道場は、クリチバ市にある日本領事館を通じて、日本政府と日本人の皆様から支援として82,000ドルの援助をいただき、新しい道場を建てること

文武館道場の解体



新しい文武館道場



ブラジル剣道連盟の希望

子供の剣道人口増加

日本で剣道交流を行う機会を増やす
(子供、大人、指導者)

国際剣道の発展と交流を目的としてテクノロジーを利用してFIKや日本剣道連盟のオフィシャルな指導セミナーを受講し情報更新を常に行うことが重要



できました。これは日本人からの支援なので、皆様のお陰でこの道場が建てられたということです。心から感謝しています。私達自身で解体をして、前の道場の床と新しい道場の床の2層床と言うんですかね。昔の道場の材料を再利用して、新しい道場を建てました。そして、つい先日の3月11日に落成式を行ないました。

最後に、ブラジル剣道連盟の希望と書きましたが、これは私の希

望でもあります。子どもの剣道人口については前に話しましたが、子ども、子どもの剣道人口を増加させることが1番の目的、課題となります。そして、日本で剣道交流を行なう機会を増やして欲しいです。やはり、剣道は日本が基本になるので、大人だけではなく、可能な限りブラジルの子ども達が夏休みや冬休みの時にセミナーや大会などで交流ができたらとても良いと思っています。国

際剣道の発展と交流を目的として、テクノロジーを利用してFIKや日本剣道連盟のオフィシャルな指導セミナーを受講し、情報更新を常に行なうことが重要だと思います。コロナになって、そのようなテクノロジーを使用することは本当に役立つなと思いました。一度、私達で香田先生ともセミナーを行ないました。しかし、日本剣道連盟で多くの人たちのために英語やスペイン語の翻訳を入れて、そのようなオフィシャルな指導やセミナーなどを行なっていただけたら、日本に行く機会がなくても参加できるので非常に効果的だと思います。コロナの時に、鍋山先生が剣道時代の雑誌を通じて、子どもの素振り大会を行なわれていました。あのような企画はとても良かったと思います。そのような素振り大会であれば、動画があれば見られるし、少し変わったものになってしましますが、そのような形式で形の大会などができれば、皆が世界大会に行かなくても繋がりを感ずることができるので良いなと思います。

今日は、長時間にわたりお聴きいただきありがとうございました。ここで終わらせていただきます。

2. 質疑応答

【奥村】それでは、尾中先生の発表を終了いたしまして、質疑応答に移りたいと思います。質問のある方は顔を出していただき、その状態で手を上げていただくか、リアクションのところから挙手をお願いいたします。

【長尾】どなたもなければ、私から口火を切ってもよろしいですか。

【奥村】よろしくお願ひいたします。

【長尾】ありがとうございました。最後のところ、非常に参考になりました。FIKやAJKFのオフィシ



ャルな教材として、英語やスペイン語での発信ということで、今後参考にさせていただきたいと思えます。ありがとうございました。1つ聞きたいこととしては、ブラジルでの対面での稽古についてですね。すでに再開されているのか、再開されているのであれば、その時の面マスクやマウスシールドの使用状況などは分かりませんか。また、この点について、ブラジル剣道連盟はどのように対応されていますでしょうか。

【尾中】ご質問ありがとうございます。コロナ禍のイベントとしては、昇段審査が1回ありました。観客は入らないで、審査をする人たちだけがその体育館に入って、シールドを使ったかどうかの記憶は定かではないんですけども、マスクはもちろん使っていました。ブラジルでは、今週、マスクを使わなくても良いということが発表されました。私はブラジル剣道連盟の WhatsApp (LINE のような SNS ツール) のグループに入っているのですが、ブラジル剣道連盟の役員は皆若い人たちで、私の年齢ぐらいの人が多く、ブラジルの法律が変わったことを受けて、剣道はどうしていいかと皆で考えている状態です。役員の人たちは、マスクを使い続けた方が良いということを皆に言いましたが、もし使いたくないという道場があれば、国が使わなくても良いと言ったので、コントロールはできません。ですが、できるだけマスクを使えたら使ってくださいという方向で行きましょうという話になっています。

【長尾】はい。ありがとうございます。とても参考になります。最初にお話しをしたのですが、コロナが拡大する前には、国によってはマスクそのものが法律で禁止されている国もありますよね。ですから、マスクの問題はとても難しい問題なんですよ。我々、FIK や AJKF としては、マスクやシールドの使用を強く推奨したいのですが、その国の法律との兼ね合いで、どこまでできるのかというのは大変難しいところなので、本日のお話は大変参考になりました。ありがとうございます。

【尾中】こちらこそ、ありがとうございます。

【奥村】はい、ありがとうございます。次に、挙手をされております鈴木先生、よろしくお願いたします。

【鈴木】尾中さん、面白い講演ありがとうございました。質問したいことはたくさんあるのですが、まずはブラジルで剣道を広める時に、どのような魅力を伝えるとブラジルの方々の心に刺さる、もしくは手応えがあるのでしょうか。たとえば、体を動かす、フィットネススポーツ的な要素なのか、健康の保持増進に役立つとか、剣道のメンタル的な部分とか、後は刀をはじめとした礼儀作法や日本の文化を面白く感じているのか、どのようなところの反応が1番良いですか。

【尾中】たぶん4番目です。日本の文化、刀、礼儀作法などの細かい日本の伝統文化を表すことに興味を持っていると思います。ただ体を動かすことでしたら、他にもたくさんありますから、剣道の魅力はそこだと思います。ほとんどの皆さんは非日系人なんですけれども、日系人よりも文化のことを知っていたりもします。おそらく、日本の文化に興味があって、勉強をして知ったのだと思います。本当に、勉強好きな人が多い



ですね。私よりももっと知っているんじゃないかなと思うぐらいです。その辺を頑張っている人が多いので、たぶん文化のところは1番の魅力になっていると思います。

【鈴木】ありがとうございます。もし、この後も時間がありましたらいくつか質問をさせていただきます。ありがとうございました。

【奥村】先に木原先生が挙手をされていましたが、もうよろしいですか。

【木原】尾中さん、どうもはじめまして。私は徳島県鳴門市に住んでいます、木原と申します。

【尾中】はじめまして。

【木原】ご苦労されて、剣道を指導されていることに本当に感服いたしました。私は講演会のチラシの中に、先生が市議会議員をされているということを見まして、私も近々議員に立候補しようと思ってるのですが、議員になって大変なこととか、良かったこととか、行政との関わりとか、剣道との絡みの中で何かアドバイスがありましたら、ぜひ教えてください。お願いします。

【尾中】私は本当に夢にも思っていないんですけど、私が住んでいる移住地は、日本人がいるからこ



そ、街がすごく皆に知られてい
ます。文化的にも、農業的にも、日
本の香水とか、本当にブラジル全
体から知られています。そのよう
な移住地で、日本人の色がすごく
強いのに、誰もそれを代表する人
がいないということで、誰かなっ
てくださいという話が 10 年前か
らずっと私に来ていました。私は
「絶対嫌だ！」といつも言ってい
たのですが、何度も言われ続けて
いたので、やってみようかなとい
う気持ちになりました。私は自分
からチャレンジをするのではなく、
いつも他の人から依頼されま
す。何回も何回も依頼が来るとい
うことは、やらないといけないん
じゃないのかなと思って、難しく
ても勉強になるからやってみよ
うということになりました。本当
に友達皆が驚いて、信じてもらえ
ませんでした。実際に入ってみると、
私が普段やっている仕事とそん
なに変わりませんでした。困っ
ている人を助けたり、私は教育の
方に興味があるんですけども、
学校や生徒や先生方と触れ合っ
て、助けられることがあれば市役
所に行って、そういう繋がりを作
るような仕事など、いろいろやっ
ています。そういうことをするこ
とが、そんなにおかしくないと思
は思っているのですが、ブラジル
ではあまり良く見られていない
ですよ。ブラジルでは、皆良
い人じゃないって決められてい
るんですよ。でも、そういう仕
事をして、人の役に立つというこ
とは本当に良いことで、楽しくや
っています。剣道との繋がりとい
うか、剣道で正しいこと、人のた
めになる、責任感ということを剣
道で習ったので、市議会議員の時
にも使っています。市議会議員に
なってから今で 1 年間くらいに
なります。難しいところもありま
すけれども楽しいです。

【木原】ありがとうございます。

【奥村】齋藤先生、よろしくお願

いします。

【齋藤】尾中さん、ありがとうござ
いしました。大変勉強になりました。
話の中で台湾大会の小室さん
との話がありましたが、あの時、
僕はコーチの立場で帯同してい
たので、尾中さんと試合をやっ
ている時には、手に汗握っていた
ことを思い出しました。ありがとう
ございます。質問をさせていただ
きたいことは、ブラジルの剣道連
盟の会員の方が 700 人くらいで
したが、コロナの関係で世界大会
が中止になり、昇段審査がなくな
ったことで 200 人減ってしまった
という話をされていましたが、
そのような方々は連盟や協会に
は所属していないけれども、その
まま稽古を続けていらっしゃる
のでしょうか。それとも、もう剣
道を辞めてしまって、実際にコロ
ナで出来なかったこともあると
は思いますが、そのような方々
がこれから戻って来られるのか。
結構多くの方々が抜けられた
ということを知っていて、私とし
てはショックになる部分であっ
たのですが、その辺はどうなん
でしょうか。

【尾中】私は戻ってくると思いま
す。ほとんどの人は大会や審査
に参加するには、会費を払わない
といけないので、そういう大会が
戻ってきたりすると、戻ってくる
と思います。私の道場も 2 人か 3
人くらい出てしまいました。それ
はやっぱりそのような大会に行
く機会がないし、そういうイベ
ントがないから出てしまう。経済
的にもコロナで大変だったから、
皆たぶんそういうところから切
っていくようになったのだと思
います。仕事を失った人がたく
さんいましたので、そういうこと
が原因で出てしまったのだと思
います。でも、剣道を辞めたとい
うことはないと思います。道場
では剣道をやっていなくて、ほと
んどがオンライン稽古です。皆
オンライン剣道があまり好きじゃ



んですよ。面白くなくて。今は
道場に入って剣道ができるよう
になったので、たぶん少しずつ戻
ってくると思います。

【齋藤】ありがとうございます。

【尾中】ありがとうございます。

【奥村】ありがとうございます。
では、鈴木先生よろしくお願
いします。

【鈴木】度々すみません。ブラ
ジルの道場の会費とかはいくら
ぐらいになっているのでしょうか。

【尾中】ブラジルの道場は、あ
まり会費を取っていないと思
います。たとえば、取ったとして
も体育館を使った時間の金額を
皆で割って払う感じですね。場
所を使うために払う必要があ
れば、集めて払う感じですね。
ですので、レンタル料だけで指
導者はもらわないですね。私の
ところは、子ども達が 11 人
いるんですけども、20 ドルを
もらっています。10 ドルは自分
が大会に行く時のホテル代や
食事代ですね。あとの 10 ド
ルは道場の掃除をする雑巾な
どの道具や電気代などを払う
ために集めています。ですが、
道場のために大会とかに行く
場合には、こちらから出してい
るので、集めた 10 ドルを還
元するといった感じですね。

【鈴木】わかりました。ありが
とうございます。

【奥村】ありがとうございます。
小田先生、よろしくお願
いします。

【小田】ありがとうございます。
小田と申します。よろしくお願
いします。大変興味深くて、
剣道具を持って世界中を周
りたいと思



って、行くところ行くところで本当に良い人たちとか、そういう出会いがあるというところにはとても共感しています。正しいこととか、責任感とか、人としてあるべきことみたいなものを剣道に求めて、そういう人たちと世界中で繋がれるという素晴らしさには、深く共感いたします。

教えていただきたいことは、日本でも子ども達の剣道人口が減ってきていて、子ども達への剣道の普及ということを真剣に考えていかなければいけないと思っています。その中で先生が筑波大学に行って悩みながら研究された「なぜ離脱をするのか」「どうして初心者で辞めてしまうのか」ということと、最後にもお話しをされていた10年間のことですね。指導をする中で、迷いながら、失敗を繰り返しながら、文化性が違うブラジルの日系ではない人たちにどのようなアプローチをすれば継続してもらえるのか。根っこがつくようになるのかということは今なんとなく分かり始めたかと仰っていましたが、その部分をぜひ教えていただきたいと思っています。また、「50年前の日本が今ここにある」と仰られたように、たぶん日本でも文化が世代とともに、子ども達が求めるものが違ってきていると思うので、その部分が大きなヒントになると思うのでぜひお願いします。

【尾中】私の研究の対象は大人でしたが、たぶん子どもでも皆同じだと思います。私が子どもに対して感じることは、本当に最初は楽しくやって欲しいです。先に剣道を好きになって欲しいです。最初

から厳しく「間違ってる」「もっと頑張れ」と言うのではなく、最初は楽しくして、剣道を好きになった段階で厳しくする。それは、自分が剣道を続けたいというぐらいのレベルになると、本当に厳しくしても、剣道がどんどん楽しくなってくるので、厳しくても楽しくなると思います。最初の頃から厳しく教えると、今の子ども達は絶対に辞めてしまいます。だから、1番大事なことは親とお話しをすることだと思います。親と一緒にチームで、先生と子どもと親とで一緒に話し合いながら、剣道の指導をすることが重要だと思います。子ども達は1人1人を見て欲しいんですよね。「鈴木さん、足上手ですよ！」とか「もうちょっと気合い出して！良いですよー！」とか、1人1人を褒めるようにすれば、子ども達には違いがすぐ分かります。全員じゃなくて1人1人にそういうことをすることがすごく重要だと思います。

2つ目について、私は覚えてままだを伝えていました。それはちょっと間違っていて、やっぱり文化の違いがあるから「礼を教えるときに、どうして礼をするのか」「どうして靴を脱がないといけないのか」「どうして竹刀の上を通ったらだめなのか」「なぜ剣道場の中で物を食べたりしてはいけないのか」、こういうことをゼロから全部教えないといけないんですよね。説明の仕方もあるがなかなか苦労しました。技術的にも、以前は「間違っている」と言ったら終わり、「間違っているから、こうしなさい」ということでも、「なぜそうしないといけないのか」ということをずっと考えたりします。昔はそのようなことを1つ1つ説明なんてしませんでした。だから、一度言ってしまったら、そのままやらないといけないという感じでした。子どもに対しては、このような説明はいりませんが、大人は知りたいんですよね。どう

いうことをすれば面が速くなるか、強くなるか、足の踵の使い方、踏み込みの使い方ですれば怪我しないかという説明をして欲しいんですよね。ブラジル人は本当に「なんで？」という質問が多いんですよね。1つ1つ説明をしながら指導をすることが重要だと思います。

【小田】ありがとうございました。

3. 挨拶

【奥村】ありがとうございます。ちょうどお時間になりました。活発な質疑応答をいただき、ありがとうございました。この他にも質問がある場合には、個人的に連絡を取っていただけて行っていただければと思います。では、最後に幹事長の酒井先生からご挨拶をいただきたいと思っています。よろしく願いいたします。

【酒井】尾中さん、今日はどうもありがとうございました。尾中さんとは、筑波大学に留学をされた時が2005年ですから、17年前になるんですかね。当時からも明るくてニコニコされていてですね、すごく努力家でした。あの当時を思い出しました。まだ筑波大学の道場にはエアコンがついていなくて、夏はとても暑かったですね。30°Cにもなるところで2時間の稽古をやって、学生も私もヘトヘトでした。その後、道場から研究室へ帰るときに陸上競技場を見ると、尾中さんが縄跳びをしていました。この人は「ここまでやるか」というくらい努力をしていましたね。今日の発表を聞いて、それを思い出しました。その後、海老原会長を始めとして、



ブラジルのチームの人たちにも来ていただき、世界大会の前に合宿をしていただきました。また JICA を通して、筑波大学の学生をブラジルに行かせてもらったりもしているといった関係でもありまして、今回無理を言って、尾中さんに講演をしていただきました。どうもありがとうございました。発表をお聞きして、すぐ準備をしていただいたことが良く分かりました。本当に感謝しています。発表の内容についても、やっぱり聞いてみないと分からないことばかりでした。剣道人口も僕らが思っていたよりもちょっと少ないなと感じました。コロナ前でも 1000 人くらいですかね。やっぱり、子どもの剣道人口も減

っているということはブラジルも一緒でしたね。日系人の割合が減っているということも聞いてみないと分からないことでしたね。そして、お父様のお話は感動しましたね。剣道具を2つ持って行ってというお父様のエピソードには本当に感動しました。今は、指導者としての課題を持ってやっている。まさしく剣道事情の最前線の話をしていただけたということで感謝しています。元々、尾中さんご自身ともブラジルとも我々は関係が深いんですけれども、今日のことですさらに関係が強くなったと思いますので、今後とも良い関係でやっていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。今日は

ありがとうございました。今後も健康に留意していただきまして、指導者としての立場もあるとは思いますが、ますますご活躍していただけるようお祈りしております。今日は本当にありがとうございました。

【尾中】こちらこそ、ありがとうございました。



令和3年度 剣道専門分科会事業報告

1) 総会の開催

令和3年9月6日(月)～12日(日)に、令和2年度事業報告および決算、令和3年度事業計画および予算、顧問会員の推薦をメール審議し、承認した。

2) 日本武道学会第54回大会剣道専門分科会企画講演会の開催

下記の内容で講演会を開催した。

テーマ：若手トップランナーの最先端研究に学ぶ

「自他共栄の科学を目指して：運動、武道、そしてeスポーツへ」

日時：令和3年9月6日～12日

場所：オンデマンド形式

講師：松井 崇 氏 (筑波大学体育系助教)

3) 研究会の開催

下記の内容で研究会を開催した。

テーマ：ブラジルの剣道事情最前線

日時：令和4年3月19日(土) 9:00～10:30

場所：ZOOM ミーティング

講師：尾中・エウザミ・美和 氏 (サンタカタリーナ州 文武館道場 剣道指導員、フレイロジェリオ市 市議会議員)

司会：大石 純子 氏 (筑波大学准教授)、奥村 基生 氏 (東京学芸大学准教授)

4) 幹事会の開催

下記の日時・場所で、幹事会を3回開催した。

第1回 令和3年5月10日(月)～16日(日) (メール審議)

第2回 令和3年7月10日(土)～16日(金) (メール審議)

第3回 令和3年11月15日(月)～20日(日) (メール審議)

5) 広報活動の活性化

ホームページによる情報提供を行った。

6) 会報『ESPRIT』の発行

会報『ESPRIT 2021』を令和3年10月29日付で発行した。

7) ホームページ「KENDO ARCHIVES」の運営

ホームページ「KENDO ARCHIVES」(<http://www.budo.ac/kendo/>)を運営した。ホームページにおいて、剣道専門分科会企画、研究会の案内と報告を行った。また、ESPRIT2020を公開した。

8) 会費の徴収

令和3年度会費2,000円を徴収した。

9) 会員数

令和4年3月31日現在で会員数は114名 (うち顧問9名、名誉会員8名)となった。

以上

令和3年度 剣道専門分科会 一般会計決算書（令和3年4月1日～令和4年3月31日）(案)

1.収入の部

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1. 前年度繰越金	645,352	645,352	0	令和2年度からの繰越金
2. 特別会計より組入	0	0	0	
3. 会費	200,000	184,000	-16,000	2,000円×92口
4. 本部助成金	50,000	100,000	50,000	学会本部より助成金
5. 広告収入	24,000	0	-24,000	ホームページ、バナー広告 2,000円/月、令和3年度分
6. その他	0	0	0	東京学連剣友連合会からの寄付金なし
7. 利息	0	11	11	
当期収入合計	919,352	929,363	10,011	

(単位/円)

2.支出の部

科目	予算額	決算額	差異	摘要
1. 研究助成費	150,000	30,220	-119,780	第54回大会分科会企画、及び研究会の助成金
2. 広報活動費	30,000	0	-30,000	東京学連剣友連合会大会への広告(ESPRIT2021特別版提供)はなし
3. 印刷・消耗品費	80,000	71,704	-8,296	会報印刷代、事務用品等
4. 通信費	40,000	13,864	-26,136	郵送代、切手・はがき代等
5. 会議費	20,000	22,275	2,275	幹事会等会議費、ZOOM使用料
6. 交通費	80,000	0	-80,000	幹事会等交通費
7. 備人費	80,000	35,120	-44,880	事務局および広報活動におけるアルバイト
8. 次年度繰越し金	439,352	756,180	316,828	
当期支出合計	919,352	929,363	10,011	

(単位/円)

監査の結果、この決算書は適切であることを証明いたします。

令和4年5月14日

日本武道学会剣道専門分科会監事

小澤 聡



川井 良介



令和4年度 剣道専門分科会事業計画

1) 総会の開催

下記の内容で総会を開催する。

日 時：令和4年8月29日（月）～9月4日（日）

場 所：メール審議

方 法：メールならびに学会大会の分科会企画前に会員から意見収集

議 題：令和3年度事業報告および決算、

令和4年度事業計画および予算、ほか

2) 日本武道学会第55回大会における分科会企画講演会の開催

下記の内容で講演会を開催する。

日 時：令和4年9月4日（日）14時00分～（予定、90分前後、日本武道学会第55回全国大会期間中）

場 所：ハイブリッド形式，対面：桐蔭横浜大学中央棟303，オンライン：ZOOMミーティング

テーマ：武道学における精神文化史研究 序説－研究方法論の探究－

講 師：酒井 利信 氏（筑波大学体育系教授）

司 会：大塚 真由美 氏（東海大学体育学部准教授），阿部 弘生 氏（東北文教大学短期大学部准教授）

共 催：BUDO WORLD (<https://budo-world.taiiku.tsukuba.ac.jp/>)

3) 研究会の開催

下記の内容で講演会を開催する予定である。

日 時：令和5年3月18日（土） 全国理事会同日

場 所：ZOOM ミーティング

テーマ：剣道の海外事情最前線（仮）

講 師：未定

4) 幹事会の開催

原則として本部理事会開催日に幹事会を行う。

（5月，7月，11月，3月）

5) 広報活動の活性化

- ・ホームページによる情報提供を行う。
- ・剣道に関する学術情報を英訳し，発信する。
- ・東京学連剣友連合会大会において広報活動を実施する。

6) 会報『ESPRIT』の発行

会報『ESPRIT 2022』を発行する（10月発行予定）。

7) ホームページ「KENDO ARCHIVES」の運営

ホームページ「KENDO ARCHIVES」(<http://www.budo.ac/kendo/>)を運営する。

8) 会費の徴収

令和4年度会費2,000円を徴収する。

以上

令和4年度 剣道専門分科会 一般会計予算書（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

1.収入の部

科目	前年度決算額	予算額	差異	摘要
1. 前年度繰越金	645,352	756,180	110,828	令和3年度からの繰越金
2. 特別会計より組入	0	0	0	
3. 会員会費	184,000	180,000	-4,000	2,000円×90口
4. 本部助成金	100,000	100,000	0	学会本部より助成金
5. 広告収入	0	24,000	24,000	ホームページ、バナー広告 2,000円/月、令和4年度分
6. その他	0	0	0	東京学連剣友連合会からの 寄付金なし
7. 利息	11	10	-1	
当期収入合計	929,363	1,060,190	130,827	

マイナスは前年度決算額よりも予算額が少ないことを意味する。

（単位/円）

2.支出の部

科目	前年度決算額	予算額	差異	摘要
1. 研究助成費	30,220	150,000	119,780	第55回大会分科会企画、及び 研究会の助成金
2. 広報活動費	0	30,000	30,000	東京学連剣友連合会大会へ の広告（ESPRIT2022特別版 提供）
3. 印刷・消耗品費	71,704	80,000	8,296	会報印刷代、事務用品等
4. 通信費	13,864	40,000	26,136	郵送代、切手・はがき代等
5. 会議費	22,275	30,000	7,725	幹事会等会議費、ZOOM使用 料
6. 交通費	0	80,000	80,000	幹事会等交通費
7. 傭人費	35,120	80,000	44,880	事務局および広報活動におけ るアルバイト
8. 予備費	756,180	570,190	-185,990	
当期支出合計	929,363	1,060,190	130,827	

マイナスは前年度決算額よりも予算額が少ないことを意味する。

（単位/円）

令和3年度 特別会計決算書(案)

1.収入の部			
科目	予算額	決算	摘要
1)前年度繰越金	511,931	511,931	令和2年度からの繰越金
2)その他	0	0	
3)利息	0	0	
当期収入合計	511,931	511,931	(単位/円)
2.支出の部			
科目	予算額	決算	摘要
1)一般会計へ繰入	0	0	
2)研究助成費	0	0	
3)広報活動費	0	0	
4)予備費	511,931	511,931	
当期支出合計	511,931	511,931	(単位/円)
当期 差し引き残高(繰越金) 511,931			

令和4年度 特別会計予算書(案)

1.収入の部			
科目	前年度決算額	予算額	摘要
1)前年度繰越金	511,931	511,931	令和3年度からの繰越金
2)その他	0	0	
3)利息	0	0	
当期収入合計	511,931	511,931	(単位/円)
2.支出の部			
科目	前年度決算額	予算額	摘要
1)一般会計へ繰入	0	0	
2)研究助成費	0	0	
3)広報活動費	0	0	
4)予備費	511,931	511,931	
当期支出合計	511,931	511,931	(単位/円)

監査の結果、この決算書は適切であることを証明いたします。

令和4年5月14日

日本武道学会剣道専門分科会監事

小澤 聡



川井 良介



事務局便り

会員の皆様におかれましては、平素より剣道専門分科会の運営に格別のご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに剣道専門分科会会報 ESPRIT2022 を送付させていただくことができました。

新型コロナウイルス感染症と共存する生活にも慣れ、剣道や研究などの活動も再活性化してきたように感じます。様々な制限がありますが、その制限によってインターネットや動画などを利用する技能を習得した方も多いと思います。その技能を駆使して、会員内外のネットワークを拡張して、活動をさらに活性化することも可能です。今後も皆様と共に、本分科会の活動を盛り上げることができれば幸いです。

本誌で掲載させていただきました学会大会での分科会企画の演者の酒井先生は、本会を牽引する卓越した研究者です。分科会研究会の演者の尾中先生は、多様な経験があり、国際的にもご活躍されています。分科会の皆様の学問的・学際的な活動につながる刺激になれば幸いです。これからも本誌から有益な情報提供ができればと思っておりますので、皆様からの引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

末筆ではございますが、皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

事務局長

奥村 基生（東京学芸大学）

剣道専門分科会会報 ESPRIT 編集委員

長尾 進
数馬 広二
酒井 利信
大石 純子
齋藤 実
奥村 基生
廣野 準一
川井 良介

日本武道学会 第55回大会 剣道専門分科会 研究会
第20回 武道ワールド・セミナー

**武道学における
精神文化史研究
序説**
— 研究方法論の探究 —

講師 酒井利信氏 (筑波大学体育系教授)
司会 大塚真由美氏 (東海大学体育学部准教授)
阿部弘生氏 (東北文教大学短期大学部准教授)

場所 ハイブリッド形式
対面 桐蔭横浜大学中央棟303
オンライン ZOOMミーティング

主催 日本武道学会 剣道専門分科会
共催 BUDO WORLD

今回の剣道専門分科会企画は、本会幹事長で筑波大学体育系教授の酒井利信先生を講師にお招きし、先生のご研究を基にした武道学における精神文化史研究についてご講演いただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。会員以外でご参加される方は、事務局までお問い合わせください。

2022年 9月 4日
14:00~15:30 日本武道学会総会後の開催のため
開始時間が遅れる場合があります

事務局: okumura@u-gakugei.ac.jp
日本武道学会 剣道専門分科会 <http://www.budo.ac/kendo/>
武道ワールド <https://budo-world.taiiku.tsukuba.ac.jp/>

令和3年度日本武道学会剣道専門分科会研究会
Division of Kendo, Japanese Academy of BUDO

**ブラジルの剣道事情
最前線**



サンタカタリーナ州文武館道場剣道指導員
フレイロジェリオリ市市議会議員

演者 尾中・エウザミ・美和 氏
Elzami Miwa Onaka

日時 令和4年 3月19日(土) 9:00~10:30

会場 ZOOM によるオンライン・インタビュー

剣道専門分科会では武道ワールド (<https://budo-world.taiiku.tsukuba.ac.jp/>) と共催で研究会を開催します。今回は、長年に渡りブラジル剣道ナショナルチームの選手やキャプテンを務め、現在は女子チームの監督である尾中・エウザミ・美和氏(剣道六段)にブラジルの剣道事情についてお話していただきます。
会員の皆様にはZOOMミーティングのURL、ID、パスワードをメールでお知らせいたします。会員以外で参加をご希望される方は、事務局(奥村: okumura@u-gakugei.ac.jp)までお問い合わせください。
奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

<http://www.budo.ac/kendo/>

日本武道学会剣道専門分科会事務局

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系 奥村研究室内

E-mail: okumura@u-gakugei.ac.jp